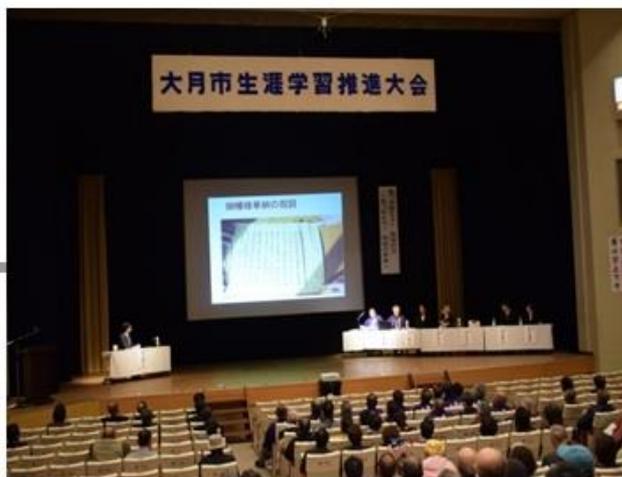


第57回 大月市生涯学習推進大会 報告書

日時 平成31年3月3日（日）於
会場 大月市中央公民館（市民会館）大ホール

【見つめ直そう！地域の力】 ～見つめよう！地域の未来～



いつでも、どこでも、だれでも学べる
大月市教育委員会



第57回大月市生涯学習推進大会 実施要項

1. 大会テーマ 【見つめ直そう！地域の力 ～見つめよう！地域の未来～】

2. 大会趣旨

身近な伝統行事、文化活動等の地域資源を見つめ直し、関心を持つことで「学び」を始めることが生涯学習になります。それが生きがいや人づくり、さらに地域づくりとなり、ふるさと大月を元気にすることに繋がっていきます。

本大会は、これからの大月の未来に繋がる地域社会を目指し、新たな一步を踏み出す機会になればと思います。

3. 主 催 大月市教育委員会・大月市社会教育委員会・大月市公民館連絡協議会

4. 日 時 平成31年3月3日（日）午後1時開会

5. 会 場 大月市中央公民館（市民会館）大ホール

6. 発表会

○コーディネーター

大月市立大月短期大学教授

榎平 龍宏 氏

○発表者

・井上 武幸 氏（大月吹奏楽団）兼アトラクション

・和田 定夫 氏（木版画家）

・杉本 芳治 氏（猿橋幡野地区役員）

・川端 健徳 氏（大月短大生、まちづくり推進協議会学生委員）

・長谷川瑞希 氏（大月短大生、まちづくり推進協議会学生委員）

7. その他

・展示等 社会教育関係団体の紹介及び出店（1階 ロビー）

各地区公民館・各社会教育団体の実施事業写真展（1階 ギャラリー）

中央公民館利用団体作品展（2階 市民ギャラリー）

・アトラクション

大月吹奏楽団による演奏 兼発表

8. 時間設定	出 店	12:00～
	受付・開場	12:30～
	開会行事	13:00～13:20
	司会者より大会説明	13:20～13:30
	アトラクション	13:30～13:45
	発表会	14:00～16:00
	閉 会	～16:05

第57回大月市生涯学習推進大会

「見つめ直そう！地域の力」

～見つめよう！地域の未来～

■日 時 平成31年3月3日（日）
午後1時 開会

■会 場 大月市中央公民館（市民会館）
大ホール



■日 程 12:30～

受付・開場



13:00～13:20

開会行事

- ◆開会のことば
- ◆主催者あいさつ
- ◆励ましのことば
- ◆来賓祝辞

13:30～13:45

アトラクション

大月吹奏楽団による演奏

14:00～16:00

発表会

16:00～16:05

閉会行事

- ◆閉会のことば

推進大会 “さあ☆始めてみましょう!”

身近な伝統行事、文化活動等の地域資源を見つめ直し、
関心を持つことで「学び」を始めることが生涯学習になります。
それが生きがいや人づくり、さらに地域づくりとなり、
ふるさと大月を元気にすることに繋がっていきます。

本大会は、これからの大月の未来に繋がる地域社会を目指し、
新たな一步を踏み出す機会になればと思います。

★ コーディネーター 大月市立大月短期大学教授



まきだいら たつひろ
榎平 龍宏 氏

埼玉県生まれの長野県育ち。専門は農業経済学、地域経済論、経済政策。最終学歴は東京大学大学院農学生命科学研究科農業・資源経済学専攻博士課程単位取得。財団法人農政調査委員会調査研究部主任研究員、名古屋経済大学准教授、同大学院教授を経て、2017年に大月短期大学准教授、2018年より現職。主な研究業績として「都市・農村格差拡大の進行と農村地域経済振興」（生源寺眞一編著『改革時代の農業政策－最近の政策研究レビュー』2009年、農林統計出版）、「地域再生の理論と農山漁村」（小田切徳美編著『農山村再生に挑む－理論から実践まで－』2013年、岩波書店）等がある。現在は、地域経済循環、農商工連携、地域経済政策、地域経済振興・活性化に関する理論的・実証的研究を行っている。趣味は水泳、海釣り。

★ 発表者



いのうえ たけゆき
井上 武幸氏

大月吹奏楽団

『市民サークルから自治体の発展と地域社会の発展を考える』

東京生まれ。幼稚園から高校まで大月で過ごす。小学校時代は少年野球一筋、中学校、高校では吹奏楽部に所属し、中学時代は全日本吹奏楽コンクールへ出場、高校時代は全国芸術文化祭へ出場する。大学から大月を離れ33歳の時に家業のため大月へ戻り現在に至る。大月吹奏楽団には結成時1988年より参加しておりこれまで市内外のイベント、幼稚園、小学校、福祉施設等への訪問演奏やコンクール等へ出場しています。定期演奏会も毎年開催しており、昨年結成30年を迎え、今年の定期演奏会は第20回の記念演奏会となります。当市人口問題と比例して当団の団員数もここ数年下降傾向になり団存続が厳しい状況ではありますが吹奏楽が大月の文化として根付くよう、後継者問題も含め努力して参ります。

★ 発表者



わだ さだお
和田 定夫氏

木版画家

『岩殿山探検隊』

私の一家は、戦前、東京品川区大井伊藤町に住んでいました。初戦優勢だった大東亜戦争も、衆寡敵せず、防戦一方で日本の敗戦が色濃くなってきた昭和19年、一家は母の実家（北都留郡七保村奈良子）に縁故疎開しました。翌昭和20年4月に私はここで生まれました。その後、田無瀬・葛野・大月町北天神に転居して、現在は岩殿を終の棲家と定めて、四十数年住んでいます。学校は葛野小・七保一中・大月東中・都留高を卒業して地元の鉄道会社に就職。大月短大の夜間部に学んだ、生粋の「大月人」です。私は子供の頃から絵を描くのが好きで、ライフワークにしていますが、数年前からは童心に還って、岩殿山の探検をしています。今、私は改めてドキドキ、ワクワクしながら、学ぶことの楽しさと知ることの喜びを実感しています。

★ 発表者



すぎもと よしはる
杉本 芳治氏

猿橋幡野地区役員

『12年に一度の「お祭り」式年大祭『御開帳』』

猿橋町幡野区は都留市盛里との境にある大桑山の麓にあり、小沢川の支流幡野川沿いにある小さな里山であります。かつては養蚕や機織業が盛んでしたが、近年人口は多かった頃の三分の一の80人程になってしまいました。本大会テーマ「見つめ直そう！地域の力～見つめよう！地域の未来～」に相応しい発表になるか不安であります。当地区に伝わる『御開帳』を守り未来へと継承していくために、里人は歴史に刻まれてきた先人達の熱い思いを胸に、力を合わせ懸命に努力して参りました。その営みの一端を感じて頂ければ幸いに存じます。しかし、それは当地区の力だけでは成り立ちません。近郷の「地域の力」が必要であり、“小さな里の大きな祭り”を通じ人々が集い、尊重し合い助け合い絆を深め「地域の未来」に繋がることを願っております。

★ 発表者 大月短大生、まちづくり推進協議会学生委員 『「地域×学生」でより善い大月を目指すには?』



かわばた たけのり
川端 健徳 氏

大月短期大学2年、大月市まちづくり推進協議会学生委員の川端健徳です。出身は新潟県で大月短期大学への進学にあたって大月市に来ました。大月短期大学では、地域政策コースを専攻していて、ゼミは本大会のコーディネーターを務められていらっしゃる横平先生のゼミに所属しています。先生の指導の下、中山間地域における振興政策について研究し、去年、「小さな拠点政策における効果とこれから」というタイトルで卒業論文を作成し、小さな拠点を整備していく初段階における地域運営組織の形成の重要性を説きました。大会当日では、今までの学習を活かし、学生目線から考えるこれからの大月市について発表したいと考えています。よろしくお願いします。



はせがわ みずき
長谷川 瑞希 氏

私は福井県出身で、高校卒業後、大月短期大学に入学しました。小さい頃から、地域の方々と交流し、皆が家族のように過ごしてきました。大月市でも、学生と地域住民が手を取り、大月市の魅力を引き出すことが重要だと考えています。私はボランティアサークルに入っており、地域の方々と様々な活動をしてきました。皆さん、とても優しい方ばかりで、大月市を大切に思っていました。そこで私たちは学生目線から、大月市をどのようにして盛り上げていくべきかを考えてきました。「学生と地域の距離が近いまち大月市」としての活性化モデルを構築できればと考えています。

第 57 回大月市生涯学習推進大会 発表会記録

趣旨説明 【大月市社会教育委員 安藤 睦美】

ここで、大会の開始に先立ちまして、大会の経緯と趣旨について、簡単にご説明いたします。

はじめに経緯についてでございますが、今大会は5回に渡る社会教育委員の会議において、大会テーマや内容を決めて参りました。会議では、各委員から提案された大会内容案を関連する課題ごとにまとめ、それぞれの提案について、社会教育との結び付きを考えながら検討を重ね、今大会のテーマ「見つめ直そう！地域の力」～見つめよう！地域の未来～及び内容が決定いたしました。

続いて、大会趣旨についてでございますが、『身近な伝統行事、文化活動等の地域資源を見つめ直し、関心を持つことで「学び」を始めることが生涯学習になります。それが生きがいや人づくり、さらに地域づくりとなり、ふるさと大月を元気にすることに繋がっていきます。本大会は、これからの大月の未来に繋がる地域社会を目指し、新たな一歩を踏み出す機会になればと思います』を大会趣旨といたします。



アトラクション 【大月吹奏楽団】



■ アトラクション終了後

【発表者 井上 武幸 氏 (大月吹奏楽団)】

アトラクションで演奏させて頂きました、大月吹奏楽団の井上でございます。アトラクションだけのオファーだと思い、お話をお受けいたしましたところ、続いて発表出来る機会まで頂き感謝致します。

私たちの吹奏楽活動を通じて、この大月の地域社会の発展にどんな貢献が出来るのかということをし、お話させていただきたいと思います。

先程、演奏させていただきましたが、あの形態がほぼ吹奏楽という感じです。演奏形態ですが、吹奏

楽は木管楽器、金管楽器が中心に編成された演奏形態を指します。吹奏楽の人口は今、百万人くらいとされています。その中で吹奏楽連盟に加入しているのが、小学校から一般の職場まで平成 29 年の数字で一万四千団体、こんなにいるんですね。これは世界の中でも類を見ない多さで、日本は吹奏楽大国とされています。演奏面においても世界でトップクラスでありまして、小学生、中学生の全国大会で演奏を聴いても本当にプロなのかアマなのか分からないくらいすごい上手な団体が多いです。私たちもそういう団体になりたいな、と思いながら日々やっているんですけどもね。

吹奏楽は限られた形態で吹奏楽の曲しか演奏できないと思われる方がいるかもしれませんが、実はいろんなことができて、J p o p や演歌、ジャズ、いろんなものを吹奏楽用に編曲したりできますので、いろんな形で皆様楽しんでいただけたらと思っています。先程も演奏を聴いて頂きましたが、音楽はその場で演奏して聴いてもらい聴衆の五感に訴えるものです。音楽って一瞬ですよ。一瞬の出来事なんです。要するに皆様の五感に訴えるものなんです。一瞬を楽しむからこそ感動が生まれ、人々の心に突き刺さっていくわけですね。音楽は心に潤いと活力を与えることのできる素晴らしい人間の産み出した産物だと思っています。この音楽に携わっていることにとっても幸せを感じています。

さて、私たち大月吹奏楽団は、司会者の方からご説明もありましたが、1988 年に結成されましたので、昨年で 30 周年、私が 23 歳の頃、今私は 53 歳ですから。昔は多い時で 55 名ほどの団員が在籍していましたが、少子化の影響などございまして、現在は 30 名前後というところまで減少しています。活動内容の一部をご紹介しますと、いろんなところに訪問演奏に行かせてもらっているんですけど、特に小学校で大月東小、猿橋小の親子コンサートで演奏させていただきました。その節はありがとうございました。子どもたちも私たちの伴奏で合唱してくれて盛り上がりました。また強瀬小学校の閉校式では校歌を吹奏楽用にアレンジしその伴奏で在校生、卒業生、地域の皆さんが校歌を歌ったことは心に強く印象に残っています。富士見苑等の福祉施設での演奏も利用者様との一体感をとても強く感じるひと時です。時には北都留の中学校から指導を頼まれることもあり、数年後大学生、社会人になり当団に入団してくれこともあります。そういった風に地道に後任の育成をしていった結果が出てきたかなと思っています。ただ、今の吹奏楽は女性が中心なので、大きくなると結婚、出産等で退団してしまうケースが多いことも悩みですが、これからも中学生や高校生との交流を深め先行投資をしていきたいと思っています。そのためにもその子たちに憧れを抱いてもらえるように私たちも日々努力し成長していかなければいけないと思っています。

昨年で結成 30 年になりますが、団運営は現状維持がやっとです。大月市の人口減少と当団の団員減少は高齢化と少子化という意味ではとてもリンクしていて似ているのかな、と思います。私たちの場合は中高



年と学生が主でその間の二十代、三十代が抜けています。しかも学生は毎年のごとく入れ替わりますので、まさに自転車操業です。その抜けた中間層の獲得つまりは学生が卒業しても続けられる環境作りが課題であり、これは団運営に直結する重大なことです。長く在籍している団員もこの現状を痛感しております。日々、団員確保に励んでいますが、なかなか難しい状況です。大月市もそうなのですが、私たちも次世代へ引き継ぐ術を模索しているところです。このままでは、いつか大月吹奏楽



団は消えて無くなってしまいます。それを何とか阻止したいと思っています。活動を維持するための財政と練習環境の確保も重要です。団員数と団財政は直結します。これも市の財政、人口減少とかに似ていて、毎年のやり繰りに頭を悩ませるところです。とにかく団員、分母が増えなければ財も増えません。練習場所に関しては、大月で練習したいんですけども、実は都留市の「びゅあ富士」という所がほとんどです。なぜかと言いますと簡単で安いからです。そこまで打楽器等大きな楽器を車に詰めて移動しなくてはなりません。市民会館は使用料が高いうえ、大ホールしか使用が許されていません。4階の視聴覚室はピアノが設置されている部屋ですが、扉にガラリが設置されているうえ防音扉になっておりませんので、隣の会議室等からクレームが来るので、この大ホールでしか使用できない状況です。方やびゅあ富士は完全防音ではありませんがどの部屋も貸してもらえらるうえ、料金もそれほど高くありません。ここでご提案させていただきます。岩殿ホールという立派なホールも出来ましたし、もし外部の者に貸し出してもいい状況になり、大月短期大学で練習をさせて頂ければ、と思っています。ただ私たちは練習場所だけ探しているわけではなく、四百人いる学生の中には経験者も絶対いるはずなんです。その経験者を取り込みたい。二年間という短い間ですが、地元に戻っても大月吹奏楽団の事を話してくれたり、中には大月に戻ってきてくれる学生もいると思います。そういうところにも賭けてみたいなとも思っています。きっと短大生も練習に参加しやすくなり、沢山の短大生に大月での生活の思い出を残せてあげられると思います。市のお偉い様方、どうかご検討頂ければ幸いです。(会場から拍手) ありがとうございます。市民の皆様、本当にありがとうございます。よろしくお願いいたします。

えっと、全国の小さな市でもですね、それなりに活動している団体もあるんですね。例えば、北海道の北斗市、大仙市、大津市、宝塚市、出雲市、飯塚市など中学校から一般まで吹奏楽が盛んな都市は沢山あります。北斗市と大仙市を除けば、十万人以上の大きな市ばかりです。ここで見本になるのが北斗市です。人口は4万6千人でありながら上磯小、上磯中、上磯吹奏楽団とすべてがハイレベルの演奏をして全国大会にもたくさん出場しています。どうしてそういう活動が出来るのかなということを私自身研究していきたいと思っています。大月市は2万4千人ほどです。人口減少著しいこの大月市で活動を続けていく事自体が厳しい状況ですが、吹奏楽が好きな人間が大月市で吹奏楽をしたい！と思ってもらえるように、日々活動を続けていきます。そして、当団が益々発展すれば大月吹奏楽団で演奏したいと思う人が遠くからでも、大月に住まなくても甲府や東京などから訪れてきてくれるかもしれない、そういう可能性もあります。市の発展には特色特徴が必須なのです。あそこに行けばあれがあるという特徴が必要だと思えます。そういう特徴に私たちはなっていければなあ、と思っています。

お話をしていく中で継続のキーワードに「好き」とか「愛着」という言葉が浮かびました。やっぱり皆は楽器が好き、演奏が好き、仲間が好き、飲み会が好き、生涯学習とはまさに「好き」からスタートするのではないのでしょうか。先週、陸上自衛隊第一音楽隊の演奏会がありました。ほぼ満員です。演奏も素晴らしかったですし、お客様もとても楽しそうでした。私たちは受付などをさせてもらったんですが、帰り

の顔を拝見すると皆さん笑顔で満足そうで元気をもらっていたように見えました。皆さん音楽が好きなんです。いつか、私たち大月吹奏楽団もそうになりたい、会場を一杯にしたいと思います。ぜひ、私たちの演奏会にも来てください。よろしくお願いします。(会場から拍手)ありがとうございます。生涯大月市を「好き」でいるために、常に前向きにポジティブに、マイナスなイメージを持っていても、「何とかなる！」をモットーに今の現状を悲観することなく目配り、気配り、心配りを大切に音楽を通して笑顔、感動をこれからも仲間とともに市内外にお届けしていきたいと思っております。

話も長くなって、多分10分を超えてしまっているかもしれません。申し訳ありません。最後に来る6月23日(日)第20回記念定期演奏会を開催致します。この演奏会は当団の音楽監督である平野先生の引退記念演奏会でもあります。開催場所は都留市うぐいすホールで、ここ大月市民会館での開催では御座いませんが、どうか多くの皆さまにご来場賜りたくお願いを申し上げます。これで私の発表を終わらせていただきたいと思います。長い間申し訳ございません。ご清聴ありがとうございました。



■ 発表会開始

【榎平コーディネーター】

改めまして、みなさん、こんにちは。これまでの天気と大きく変わりました、雨で寒くて足元が良くない状況なんですけれども、昨年、お越しいただいた方がいらっしゃったら思い出していただきたいんですが、本当に温かくて、こんないい天気の良い日曜日にですね、よくお越しになりましたね、という皮肉を話したことを思い出しました。

みなさん、先程の演奏、いかがでしたでしょうか。あの演奏を聴いただけでもこの場において良かったなあと感じられた方々がたくさんおられると思っています。大月は本当に一生懸命頑張っている人々、いろいろな地域資源があふれている地域だと思うんです。それをこれから私たちはどう繋いでいくのか、どう多くの方々に知ってもらっていき大月を好きになってもらうのか、といったことが大きな課題だと思いますね。昨日はこの同じ大ホールで大月短期大学の卒業式が行われました。222名の卒業生を送り出すことができました。市長はじめたくさんの市民の方々に見守っていただいた学生たちを無事に送り出せました。心から感謝申し上げます。大月について二年間学んだことをこれからどう活かしていけるのかということ置き土産として話をしろ、と今日発表するゼミ生二人は壇上に上がらせてもらっています。地域で頑張っている方々、二年間大月で学ばせていただいた学生からの様々な提案を聞きながら、大月を元気にするためにはどうしていけばいいかをこの場で考えて学んでいきたいなと思っています。短いお時間ですけれども、お付き合いをお願いしたいと思います。

それではですね、まず先ほど、井上さんから感動的な演奏とお話をいただきましたけれども、ぜひ、みなさんご質問あるいはご意見などございましたら、積極的にお話いただけたらと思うんですけど、いかがでしょうか。

【会場なし】

【榎平コーディネーター】

私はこれだけは聞きたいなと思っていたんですけど、団員の数がピーク時より半分くらいに減ってしまっているそうなんですけど、これが無くなってしまうと大月にとって宝が一つ無くなってしまうことと思うんですけども、引き継いでいくことに環境作りが必要だとお話されていましたが、具体的に行っている事があればぜひ、教えてもらいたいなと思います。これはいろいろな団体に共通する課題だと思いますので、努力されている具体的な取り組みについて、お話ししていただきたいのですが、いかがでしょうか。

【発表者 井上氏】

はい、ありがとうございます。やはりですね、ポイントとしては北都留における小学校はまだしも中学校、高校の子どもたちとどう深く関わっていくかというところが焦点になってくると思いますので、定期的に訪れたり、合同練習や演奏をしたりですね、昨年の市民音楽



祭でも大月東中学校の子どもたちと合同演奏をしまして、それはお話をしながらコミュニケーションをとっていったら、どんどんパーソナルスペースが短くなっていくような、身近な存在になっていくことが次に繋がる手段かなと思っていますんで、町づくりもそうですけども一年や二年みたいに短い時間では出来ませんので、地道にやっていくしかないのかなと思っています。そして、大人として技術もそうですけど、人間性も含めて見本にならないかなと思います。そういう面も含めて努力していかなければならないと思っています。そして、還ってくることを信じて活動しています。

【榎平コーディネーター】

ありがとうございます。本当に先ほど見ていて、格好良かったですね。井上さんは普段も格好いいんですけど、今日はさらに格好いいですね。去年も強調させてもらったんですが、格好いい姿をですね、子どもたちに見せていくことが大事だと思うんですね。よく親父の背中を見て育つとありますが、今はそういうのは流行らないかもしれませんが、でもやっぱりそういうものを見せていく場をたくさん作っていかないとかなければならないと思いますし、そのためには取り組む皆さんが努力をして成長していく。このような循環が文化や芸術を通して人づくりに繋がっていくと思いました。ありがとうございました。

それでは二人目の報告者、和田さんはテレビに登場されたりですとか、この大月の岩殿山を愛して止まない方でいらっしゃると思います。岩殿山と言いますと鬼伝説や小山田氏との関係などいろんな逸話がありますがけれども、本当に自然、風景を愛している和田さん、よろしくお願ひ致します。それでは早速ですけれどもパネリストの方々からご報告をお願いしたいと思います。

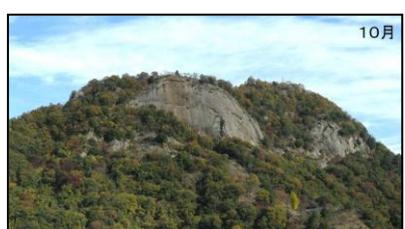
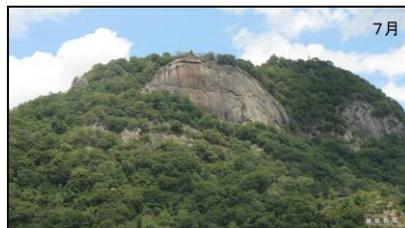
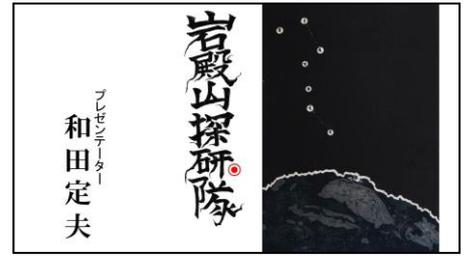


【発表者 和田 定夫 氏 (木版画家)】

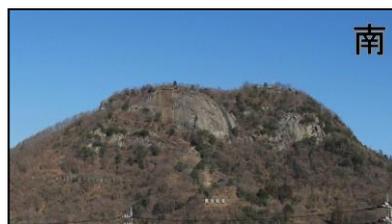
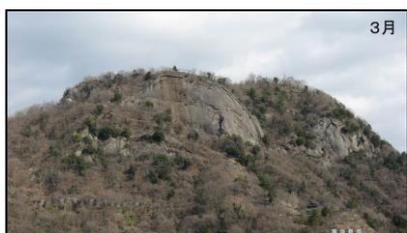
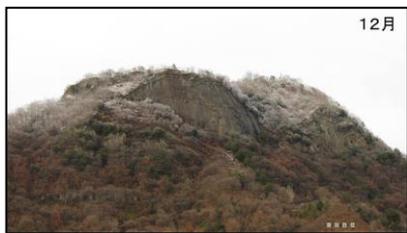
只今、ご紹介に預かりました和田です。先ほどは多聞なご紹介に預かりまして、大変恐縮しています。本日のこの講演ですが、当局の皆さんから岩殿山の魅力を発信してほしいということで依頼されました。持ち時間が20分だそうです。千数百年の歴史を秘めた岩殿山を20分で語り尽くせることは出来ませんので、ここで岩殿山の何を話せば魅力を感じてもらえるのかと悩んだんですが、なまじっかな知識を断片的に語るより映像を見ていただいてその人なりの感性で魅力を感じてもらえればと思ひまして、百聞は一見に如かずとか百万編の言葉より一枚の写真という言葉もあります。撮り貯めた写真の中から厳選してみました。どうぞ、全編スライドですので気楽な気持ちでご覧になって感じてください。では、始めます。

これは、僕が小学三年生の時に同級生の仲のいい仲間と初めて登った岩殿山の写真です。これが僕で、この人は皆さん、誰だか分かりますか。今日は見えてないみたいですが市会議員の大石源廣くんです。他の二人は川崎と八王子にそれぞれ住んでいます。今から65年前の探検隊です。ずっくの靴を履いて半ズボンでおにぎりを風呂敷に包んで、いかにも昭和20年代の子どもという感じで、自分で言うのも何なんです可愛いですね。それではここからスライドがどんどん20分で収まるか分かりませんが出来る限りお見せしますので、一緒に探検に出掛けてください。

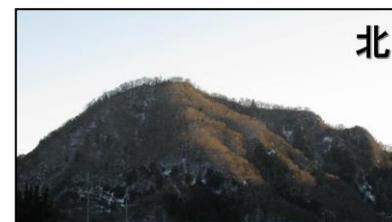
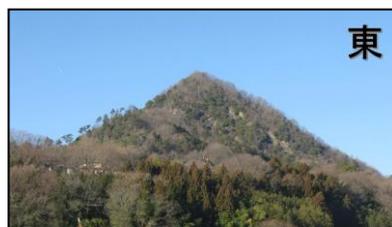
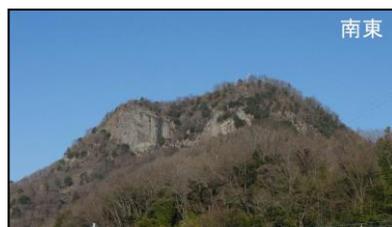
所々、花が出てきますが、これは岩殿山に自生している花の写真です。これはちょうど行った時の藤です。それでは岩殿山を12ヶ月で見えていきますが、四季によって風情が変わってきますので、12ヶ月に編集してみました。4月になるとまず桜が満開になりますね。観光協会から市民の方々がたくさん来るので宣伝してくれということですので、今年の3月30日に岩殿山さくら祭りがあるので、ぜひ皆さんお出掛け下さいとのことでした。5月になると新芽が出て、緑鮮やかな感じですが、6月は梅雨の晴れ間の天空の岩殿山です。7月になると緑が大分濃くなって、



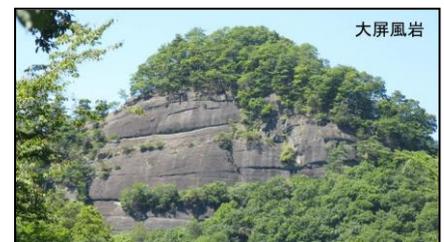
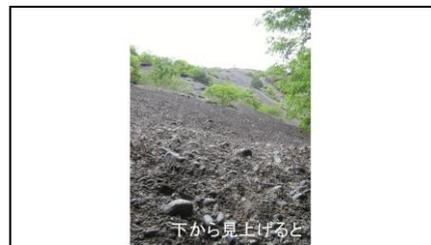
雲なんかも夏のモクモクした雲になります。8月は更に緑が濃くなって、9月になるとちょっと色づいたかなと、10月は大分紅葉も進んできて、11月になるともうこれは晩秋の感じで葉っぱを落とした木もいくつか見えます。12月になるとこれは初雪ですかね、頂上の方だけ雪があります。1月の雪晴れの天気の良い日の岩殿山です。2月になるともう名残雪で牡丹雪という粒が大きい、ふわっとした感じの朝焼けの岩殿山です。3月になるともう全部葉っぱも落ちて、桜を咲くのを待っている感じです。



山というのは見る位置によって形が変わります。岩殿山を中心に2キロの円を描いて、東西南北8つに放射線を出して、円と交わった地点をぐるっと一周してみました。真南から見るとお馴染みのこんな形です。場所は図書館のちょっと東側になります。南東は強瀬の村はずれの幡野さんという地藏堂の裏からです。真東になると七保の大島という地区があるんですが、そのはずれに昔、六本松という辺があったんですが、そこから見るときれいなピラミッド形になって見えます。これが岩殿山の正面です。ここに七社権現洞があって、この辺に円通寺という修験道のお寺があった所です。この頃、大月はまだ富士山の溶岩が藤崎の方まで流れて、人なんか住んでなかったですね。もうちょっと進んで葛野へ入るちょっと手前に御嶽神社がありますが、ここが山道の拠点です。真北になると上畑倉の公民館の所からになりますね。これが鏡岩の裏側になって、頂上がここです。西北は畑倉から峯山という山を巻いて稚児落としへ行く昔の道があるんですが、その途中からです。真西は浅利の天神山という所から。南西の方向は北天神の国鉄の変電所があったあの辺です。今の太月三丁目の所です。これも見慣れた岩殿山です。



修験道のお寺があってその道場に使われていた岩殿山ですから、岩壁だとか名の付いた洞窟がありますので紹介します。これは岩殿山の向かい側の菊花山から撮った岩殿山ですが、かなり上から見たような感じになっています。町から見る岩殿山はこう見ますんで、ちょうどこの部分が隠れて見えませんがね、一番高い電波塔があるところが岩殿山の634メートルの頂上です。鏡岩と恵比寿岩というのがあります。鏡岩の下から上を見上げるとこんな感じで覆い被さるような感じです。上から南西の方向を見ると、ちょうど桂川が流れていて富士山がよく見えます。岩殿山から西へ尾根が伸びているんですが、その先に兜岩という岩があります。最初はこれを三つまとめて兜岩と呼んでいたんですが、戦前の登山の案内書には三つ別々の名前がついて、これが釣りがね岩、これが鎧の銅のような形なので鎧岩、これが兜岩ですね。これは雪の兜岩ですね。また、違った風情です。兜岩から天神山を通して、さらに稚児落としの岩壁という、ここからちょうど120度くらいに開いた衝立のような岩ですが、



ここからここまでが大体 120 メートルくらいあります。次の写真はこの一番高い所から東側のこちちを見て、その次はここに枯れた松がありますが、ここから上を見た写真です。昔、行ったことがあって、ここは沢が流れていまして浅利川に注いでいます。これは浅利小学校の裏の尾根をちょっと登って行くと西側の尾根に地元の方が言う大屏風、小屏風という岩がありまして、こちちが大屏風、こちちが小屏風です。葛野から見た北側の新宮の岩壁です。この辺はずっと岩盤ですので、降った雨がずっと沢をつたわって、普段はないんですが、雨の後は滝になっています。

次は洞窟がいくつかありま



すので、そちらを映します。

これが七社権現洞といって岩殿上のバス停から東側の登山口があるんですが、そこを行くと途中でちょっと入った所に洞窟があります。間口が大体 20 から 25 メートルくらいで奥行きが 15 メートル、高さが 7・8 メートル。昔は七社権現洞というお堂がありまして、

中に七体の権現様が祀られておりました。今は麓の真蔵院の法仏殿に安置されています。内部はこんな風になっています。祠があってお札が見えると思うんですが、よく見ると平成 22 年の 12 月に熊野修験の青岸渡寺に所属する山伏が来たとい

います。千何百年前に出来た円通寺の…昔の信仰が今に活きているというのがうれしいですね。これは新宮の洞窟です。教習所のちょっと先を 5 分ほど登った所にあるんですけど、こちらはちょっと大きくて大体 30 メートル、15 メートル、高さは 5・6 メートルくらい。中は天井が崩壊して

いまは入れないように看板が建っています。これは大月桃太郎伝説では、鬼が住んでいたということで鬼の



岩屋と言われていて、入口にこんな看板が建っています。浅利には勝玄洞窟というのがあって、奈良のお坊さんの勝玄がこの穴で修業をしたと言われていています。没後千年経った供養のためのお地蔵さんです。浅利では馬栓穴という洞窟もありまして、これは幅が5・6メートル、高さは1メートル50センチくらいです。武田の埋蔵金をここに隠したと言われていた穴です。

すみません、巻きが入りましたので、写真はいくつか割愛させていただきます。その他でちょっと珍しい現象というか、桜が咲いているのに雪が降っている絵ですね。平成27年です。岩殿山の山の名前の由来ですが、あそこに平安時代の始めに修験道のお寺で岩殿山円通寺というお寺が出来たんですが、その山号からだそうです。それまで強瀬の人たちは西山と呼んでいたんですが、円通寺が出来て岩殿山という名前をつけたので、そこから岩殿山ということになりました。今でも道標が残ってまして。これは手水鉢（ちょうずばち）ですね。桃太郎伝説で形が似ているということで、鬼が酒盛りに使ったと言われていた杯です。この辺はちょっと、とぼします。これは奈良子の奥に矢竹という地域があるんですが、その先を登ったところに大峯山という山があって、行く途中に西沢の頭というところがあってそこから見た岩殿山です。前はすっぱり切れていますが、後ろにいくつか尾根で支えているような直角三角形みたいになっていますね。この山とこの山の間に秋山村で、こことこの間に道志村、これが丹沢山、この向こうが神奈川県。1,400メートルくらいの低い山ですから、東を見たら地図で調べたら八王子の街ですね。大月から八王子を見たのは初めてですね。ちょっと感動でしたね。熊の爪痕とかありますんで、ちょっとこわいですが、もちろん鈴は付けて行っています。修験道



の修行した山ということで今、生きているということがうれしくて、また山伏が来るという情報を得まして、お願いして同行させていただきました。来たのは真言宗の山梨教区の青年部の方々に、出発に先立って登山の安全を祈願して、ほら貝を吹いたり。コースは稚児落としから天神山を通して兜岩から岩殿山。稚児落としの岩の上ではほら貝を吹きました。天神山の祠の前で岩殿山へ下って来て、やっぱり岩殿山は山伏がよく似合いますね。



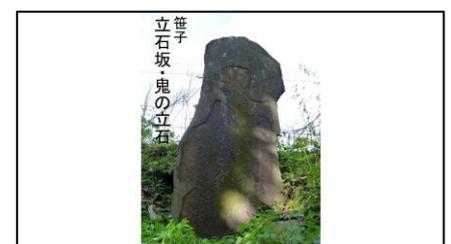
ここで一旦、探検隊は終了しますが、大月の桃太郎協会から要請がありまして、引き続き大月の桃太郎伝説を紹介したいと思います。たくさんの市民の方が見えているので、ぜひということだったので。版画で今、桃太郎の本を作ろうと思って、何点か完成している絵がありますので、組み合わせで大月の桃太郎伝説を紹介したいと思います。これはいろいろ聞き取りをして集めた中で作った話なので、皆さんがお聞きになったことがある話と違う箇所もあるかもしれませんが、後で質問いただければ、お話いたします。



むか～し昔、甲斐の国、鶴郡（つるごおり）に百蔵山という山がありました。その名の通り、山一面桃の木が生えていて、毎年、沢山の桃の実を付けていました。そして、この山の麓には、大変仲の良いお爺さんとお婆さんが住んでいました。ある日、お爺さんが桃の実を採りに百蔵山に行くと、一際大きな美味



しそうな桃の実が生っていました。お爺さんは、お婆さんと一緒に食べようとその桃の実を家に持って帰りました。お婆さんが包丁で切ろうとすると、中から元気な男の子が飛び出してきました。かねてから、子どもを欲しがっていたお爺さんとお婆さんは、「これは天からの授かり物だ」と大喜び、桃から産まれてきたので、桃太郎と名付けて大切に育てました。そして、それから何年かが経ちました。いつの間にか、岩殿山には一匹の赤鬼が住み着いて、時折里へ下りて来ては、悪さをして村人を困らせていました。一方、お爺さんとお婆さんに、大切に育てられていた桃太郎は、立派な少年に成長していました。岩殿山の赤鬼の話聞いた桃太郎は、「よし、それでは、僕がその鬼を退治してやろう」と、鬼退治に向かおうとすると、近郷の村から三人の助太刀がやってきました。「僕たちも一緒に連れていってください」申し出たのは、犬目から来た犬と鳥沢から来た雉と、猿橋から来た猿でした。力強い味方を得て桃太郎は、ます



まず闘志を燃やし、四人は連れ立って岩殿山に向かいました。桃太郎一行が、岩殿山を見渡せる太田ガ原までやって来ると、その様子を山の上から見ていた赤鬼は激怒して、手に持っていた石の杖を二つにへし折り、桃太郎一行に投げつけましたが、左手の石杖は桃太郎一行には届かず、石動原（いしどうっばら）に突き刺さりました。右手の石杖は、力余って遠く笹子まで飛んで行って、白野と吉久保の堺の、立石坂に突き刺さりました。勇敢な桃太郎一行の攻撃に、遂に鬼は追い詰められ、対岸の徳巖山に逃げようとしたのですが届かず、足を拵げ過ぎた鬼は遂に股が裂け、大量の血を流して死んでしまいました。



これが鬼の血と呼ばれている赤土です。鬼が自滅したところで、大月の桃太郎はあっさりと終わって、尻切れトンボみたいになっています。いずれにしてもそういう話が昔から伝わっています。これが子神神社です。目印に観光協会で作った看板が建っています。そして、鬼の杖、鬼の立石。ということです、これで大分時間を過ぎちゃったと思いますが、すみません、ご清聴ありがとうございました。



【榎平コーディネーター】

和田さん、本当に楽しい話をありがとうございました。聞き入っちゃいましたね。どうでしょう、今、ご質問をとということでしたが、どなたかお聞きしたいことがあれば。

【質問者A 男性】

どうも和田先生、ありがとうございました。私は日本桃太郎の会の会長をやっている、チョコちゃんにちょこっと出させて、大月の宣伝をさせてもらった松川桃太郎です。この大月の桃太郎伝説を猿橋があって、鳥沢があって、犬目宿があってという地名が全部あるのは大月だけなんですけど、そのところは、和田先生はどのように捉えていますか。こんなに地名が揃っているのは岡山にもないので、そのことを私は強調して、なおかつ富士山もここから見えるという、岡山からは富士山が見えないです。そういうところは和田先生はどう岩殿山との繋がりをお持ちでおられますか。よろしくをお願いします。



【発表者 和田 氏】

僕が言うと、つまらない話になるかもしれませんが、ここで大月が発祥の地だと言えばいいんでしょうけど、確かに昔から鬼に対する伝説は幾つかあって、それと明治の中頃に出た桃太郎の教科書に載った話があるんですが、それとうまく混ぜ込んで作られた話だと僕は思っています。



【榎平コーディネーター】

いいですか。非常に面白い今のご発言ですけれども、元々、征夷大將軍坂上田村麻呂が蝦夷地の野蛮人を成敗したことを神格化するために作られた物語と言われているけれども、いろいろ考えると鬼っていうのは、その地域地域によって、よくないもの、悪いもの、先ほどの野蛮人という悪いもの、桃っていうのは神聖なもの、めでたいものっていうそこから出てきた子どもがその地域のために思って悪いものを退治するっていうお話はいろんな所にあるんじゃないかなと思うんですよね。桃太郎伝説がいろいろな場所にあるというのは、大月にも退治する若者がいたという話があったのかもしれないですね。そう考えると桃太郎伝説がいろいろなところにあるのはそういうことだと思いますね。いずれにしても自然豊かな岩殿山、見る人が変われば様々な角度から見れるし、ひとつのものをいろんな人が見て、意見をぶつけ合うということは非常に大事かなと思いました。ありがとうございました。和田さんにもう一度大きな拍手をお願いします。続いての報告ですけれども、非常に興味深い取り組みということでとても楽しみです。猿橋の幡野地区という所で12年に一回開催されているお祭りをずっと引き継いでこられた幡野地区の役員の方々、特に今日発表する杉本さんにお話ししてもらいます。それでは杉本さん、よろしくお願い致します。

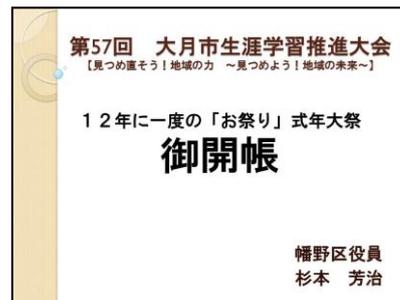
【発表者 杉本 芳治 氏 (猿橋幡野地区役員)】

只今、ご紹介に預かりました猿橋町幡野の杉本芳治と申します。手前にいるのが知見邦彦でございます。よろしくお願ひいたします。幡野地区は、猿橋のやや下流の桂川へ注ぐ小沢川の支流の幡野川流域にある山間集落であります。現在の人口は多い頃の三分の一程度の八十名弱であります。その幡野地区では昨年五月、十二年に一度のお祭り「御開帳」を開催し、無事終了いたしました。区民一同は大事を成し遂げたことに安堵をいたしておりましたところ、十月、猿橋の公民館長や市役所の方々が当区を訪れ、生涯学習推進大会でこの珍しいお祭り「御開帳」を発表してはいかがかと要請がありました。経験のないことへの参加でありますので迷いましたが、地区の協議の結果、私がこんな高いところへ座らされる破目になってしまいました。本日の生涯学習推進大会に相応しい発表になるか不安であります。当地区に伝わっています式年大祭「御開帳」について発表させていただきます。

まず、何を御開帳するかと申しますと錦織の「幡」であります。はたごときに何でと思われる方がおられるのではないかとと思いますが、当地区ではその「幡」の上に御の字と下に様を付け畏くも「御幡様」と呼んでおります。御幡様を語るにはまず、幡野区民の心の拠り所となっている山、甲弓山に鎮座する正八幡神社を説明しなければなりません。正八幡神社はこの幡野地区及び氏子等の氏神様であります。その起源は、第二十二代清寧天皇の御代、軍中の錦の幡「御幡様」を頂き宝物として祀ることに始まり、奈良時代の宝亀年中（770～781）に建立されました。家紋は表紋に、十六枚の菊の御紋、裏紋に五・七の桐の御紋を賜っております。

時代は下り、神社は鎌倉時代の承元二年（1208）火災にて消失し、その際、宝物の御幡様は、不思議なことに墨雲のごとく天空に舞い立つ煙とともに空中へ飛行し、相模の国の日向薬師に舞い降りたとも、また、南北朝の動乱の折り、日向薬師に移されたとも伝わっており、現在も伊勢原市の日向薬師に大切に保管されているそうです。

宝物がなくなり、永く悲しみに沈んでいた氏子等は、五百七十年の後、江戸中期の安永七年（1778）二月、氏子総代、知見丈助と知見惣八（時の氏子総代・現ご子孫あり）の二人が神官和田長門殿（藤崎の太田・ご子孫あり）へ付き添いまして京の都へ上り、神祇管領家の吉田家とト部家へ訳を話し、御幡様の下賜を上奏したところ、お願ひ聞き届け相成りまして、北白川の宮家が所蔵しておりました本金赤地綿に、み鏡七面並びにみ鈴七振りが施されている御幡様を御下げ渡しいただきました。この写真が現在の御幡様の写真です。そして、お下げ渡しいただきました御幡様は、直ちに長持ちを整え帰路につき、国に帰りまして、道中、一日千秋の思いで待ち焦がれていました氏子の村々宿々で歓待を受け、信心する氏子ともども群衆をなし帰村、同年三月十四日より十六日までの三日間、御幡様を開帳したとのことです。安永七年が戊戌で戌年より戌年までを期として、御下げ渡しの際、御開帳を義務付けられ、戊



正八幡神社の紹介		
	<祭神>	應神天皇
	<宝物>	御幡様
年代	出来事	備考
奈良時代後期宝亀年中 (770年～781)	八幡神社建立	新羅征伐の際の軍旗を宝物として、建立。 表紋は十六枚の菊の御紋。 裏紋に五七の桐の御紋。
鎌倉時代 承元2年 (1208年)	火災にて消失	御幡様は飛行し、相模の国(日向薬師)へ舞い降りたとされる。
鎌倉時代 承元年中 (1208年～1211年)	再建	再建の功績により鎌倉幕府から「正」の字を賜った。
江戸時代 安永7年戊戌 (1778年)	2代目御幡様	京都神祇管領家に上奏 北白川宮家所蔵 「本金赤地綿」を下賜される。



年の都度開帳することとなったのであります。よくぞまあ、情報も知識もないこの時代に甲斐の山奥の幡野から京の都へ行ったものだと、本当に感心いたします。氏子等の熱い想いを一身に受け、相当な覚悟で臨んだのだと思います。この写真は、安永七年に御幡様を奉納した際の祀詞であります。時代を遡りますと、安永七年の干支が戊戌で、折しも昨年、平成三十年が戊戌であり、ちょうど六十年の干支が四順となる節目を迎え、二百四十年の間、安永七年を初回とし、数えること二十一回を重ねることが出来ました。御幡様の御開帳に際し、始めは氏子や信者が御幡様を崇敬し、参詣に訪れていたことでしょうか、江戸後期から明治にかけて、神様への奉納として神楽が伝わりだし、次第に各地区に拡がっていく中、御開帳にも神楽奉納が定着し、現在の形になってきたと思われまます。ある地区では明治二十四年に、幡野へ御神楽を習いに行ったとの記録が残されております。

さて、現在、御開帳をどのように行っているかと申しますと、主たる日程は三日間であり、初日に御幡様が保管されているお魂屋から700メートルほど離れた甲弓山山頂にある神社本殿へ移す地元だけの「お上りの儀」を執り行います。その際、御幡様は長持に収まり、御開帳諸役に担がれ、神楽の隊列の先導により本殿へ出発いたします。本殿での御幡様はこのようなお姿で祭りの間、御開帳殿に開帳されています。次の集合写真は神楽運行を司る幡野神楽保存会の写真です。毎年、記録として残すため同じ場所で撮影をしています。そして、中日二日目は神官が五名、加えて各地区から三名ずつの招待者による「奉幣祭」となります。奉幣祭とは、天皇の命により神社、山陵などに幣帛を奉獻する神事の事であり、近郷では大変珍しい神事だそうです。この写真は奉幣祭にあたり、里の御堂に各地区の代表が集合し、山頂の本殿へ向かう時の写真です。続いては、本殿において古式に則り、厳かに行われる神事の写真です。そして、この写真は神事後、境内においての直会（なおらい）の写真です。お知り合いの方が写っているかもしれませんね。そして、三日目は、「参詣神楽の奉納

御幡様奉納の祝詞



平成30年（戊戌） 5月2日

1日目 地元のための祭事

「御幡様」を里の御霊屋から山頂の本殿へ



御開帳殿の「御幡様」



平成30年（戊戌） 5月3日

2日目 奉幣祭

「奉幣祭は、天皇の命により神社・山陵などに幣帛を奉獻する神事である。」



平成30年（戊戌） 5月4日

3日目 奉納神楽

「各地区が正八幡神社に参詣し神楽の舞を奉納する。」



の舞」となり、三日目のお客さんが一番多く、祭典が佳境に入り最高潮を迎える日となります。臨時に作られたお祭り広場へ、午前九時頃より各地区の参詣神楽が続々と集結し始め、午前十一時頃までには全ての神楽が勢揃いいたします。この写真はお祭り広場での写真です。広場では、式典を行い、樽酒の鏡を開き、参詣者全員で飲食を取り、十二年ぶりの再会とお互いの健勝を喜び楽しんだりして、意気投合をしています。

そして、体制を整え、午後一時頃より各地区参詣神楽が山頂の神社本殿へ登頂するお上りが開始となります。お上りの写真はドローンからの映像も含まれております。急峻で険しい参道であります。それぞれの揃いの法被も鮮やかに、篠笛や太鼓の道囃子に、露払い役の道舞いの御神楽を先頭に、掛け声も勇ましく上っていきます。従者も加わりますので大勢になり、それは賑やかに勇壮であります。また各地区の特色が活かされ、その道中の様は見事であります。道囃子や威勢のいい掛け声が聞こえて来るような気がいたします。

次の写真は頂上の神社前、参道の鳥居において体制を整え、境内へ入場する時の写真であります。順番はしきたりに従い先頭の朝日小沢を除き、くじ引きで決めております。初日に上って、待機していました地元幡野を含め、九頭が揃ったところで、祝賀式典を行い、ご来賓の方々に祝電をいただきます。ここでも樽酒の鏡を開き祝杯をあげることとなります。祝賀式典に続き、いよいよ五穀豊穰、万民豊樂を願い、神楽奉納の舞が開始されます。順番は、先頭の朝日小沢としんがりの幡野以外はくじ順の通りであります。中には滑稽な踊りで楽しませてもらえるところもあります。九頭の奉納の舞が終了しますと、順序に従い里へとお下りをいたします。お下りもお上り同様、道囃子に、道舞の御神楽を先頭に賑やかに下っていきます。御幡様



奉納神楽

正八幡神社へ参詣

お上りの順序

1. 朝日小沢	5. 津成
2. 強瀬	6. 小篠
3. 太田	7. 久保
4. 小沢	8. 小倉



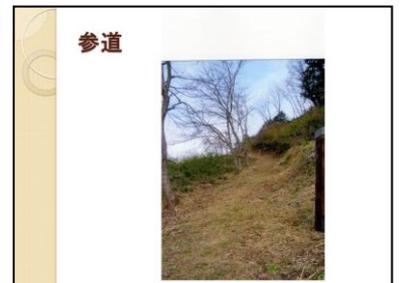
は長持へ納められ、しんがりの幡野の神楽に先導され神社を下り、里の御魂屋へお戻りになります。里へ下り、休憩を取りながらお祭り広場へと戻っていきませんが、しんがりの幡野が戻る頃にはすっかり陽も落ち、提灯の灯りと笛の調べが郷愁をそそり、日本的な情緒を醸し出していきます。お祭り広場へ到着しますと、女性部によるけんちん汁やお酒の接待を受け、すべての神楽が納めの舞で締めくくる頃には時刻は午後十時頃となり、長い長いお祭りの一日に幕が下ります。以上、御開帳の概略であります。雰囲気を感じていただけただしょうか。もう少し詳しく知りたい方は、ブルーレイディスクに収録してありますので、ご用命ください。

永き歴史の中で回を重ねてきましたが、順調な時ばかりではなく、困難な中での開催もあったことと思います。近年においては、太平洋戦争終戦直後の昭和二十一年戊午。食糧事情が悪く試案の末、一年送り二十二年の亥年の開催となりました。しかし、状況は変わることなく、食糧を確保するため大変苦労したと聞いております。それ以降も、若者の祭り離れや冷夏による米不足の平成六年など、その時々苦労がありました。今回の開催においては、各地区ともに少子化による人口の減少が顕著となり、祭事や神楽運行の要員が不足となってきました。抑々、正八幡神社は山宮であり、勾配はきつく、人が通るだけでも大変な参道です。写真のように途中には平らな所もありますが、重量がある神楽堂や奉納の舞に必要な物は全て担ぎ上げなければならず、青年が大勢いた頃は問題にすらならなかった事が、少子化のご時世では大変大きな問題になってきています。幡野区としては「小さな里の大きな祭り」であることから、一年前から祭典委員会を開設し、氏子や参詣予定の地区へ開催のお知らせで巡回を重ねておりましたことから、各地区の状況やそれらの課題は十分理解してござい



開催の危機

時期	原因
昭和21年戊午	太平洋直後の食糧難
日本経済高度成長期	若者が都会へ流出
昭和50年代以降	娯楽の多様化による祭りへの関心の薄れ
平成6年戊午	平成5年の冷夏による米の不作
平成10年代以降	少子高齢化による人員不足



た。そこで、幡野区会、祭典委員会や幡野区役員、氏子総代や、神楽保存会を中心にさまざま協議、検討を重ね方策を思案しております。ちょうどその頃、子どもの体験学習をサポートする東京のNPO法人が当区へ活動拠点を置いたことにより、大学生を中心とする、学習に関わるスタッフが



三十人ほど支援してくれることとなり、手不足地区へ配分することが出来ました。このことにより問題となっていた手不足はある程度解消がはかれ、祭りの体制を整えることが出来ました。大変感謝しております。

そして、この御開帳への地元の取組みとしましては、今回も、三年前から積み立てを始め、また多くの方々から寄付を募り運営資金を確保しました。先に述べたように機運を盛り上げるため、一年前から各地区を巡回し始め、日程や開催手順の伝達や参加への要請、確認、地区代表会議の開催、予算の

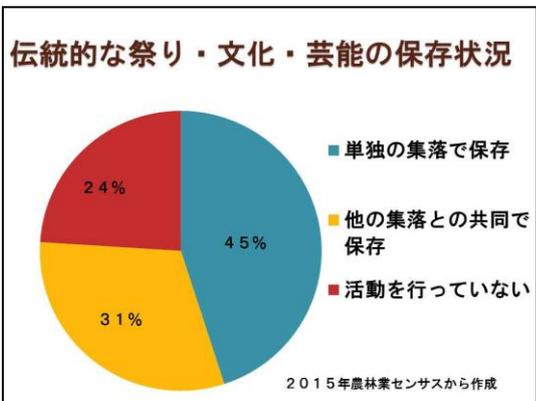


見積もり、ポスターの製作、仮設の手配、参道の草刈り、見通し確保の立木の伐採などなど準備には十分時間をかけました。開催が近づきますと、男衆は数日前から駐車場整備や諸々の仮設の準備に取りかかり、女衆は食事や飲み物を振る舞うための準備に入ります。その仕込みの量は、当区の人口の十倍以上の千食ほどになりますので、役員を中心に大忙しとなります。しかし、これらすべての準備を限られた人員で行うには、負担が大きすぎることから、今回は一部を食事専門業者に委託しました。しかし、参詣者の皆様様に満足していただけますよう幡野



区民が一丸となり、老いも若きも男も女も総出であります。スライドの映像は農林業センサスの資料ですが、全国的にも古からの伝統ある祭りの存続が厳しい状況にあることがお分かりいただけると思います。ご覧になりながら聞いてください。

さて、御開帳はこれまでも次回の開催がその都度危ぶまれてきましたが、近郷の方々の協力のもと、これまで何とか伝統を守りつなぐことができました。今回も様々な不安の中で開催ぎりぎりまで参加表明ができなかった地区もありましたが、結果、自ずからの地区の先人たちがこれまで継承してきた伝統を絶やしてはならないと、勇気ある決断を下され参詣にこぎつ



けていただきました。このように参詣する側も参詣への決断とその後の準備は大変であります。多くの神楽が集結し、多くの参詣者が来る幡野の御開帳に舞を奉納するのだから、いつもよりは期間を長く稽古をする地区や、御開帳で舞わなければ一人前ではない、と奨励している地区もあるとも聞いております。また、提灯の張り替えや、神楽堂、獅子の修繕をしたり、浴衣や法被を新調したりと、より入念に準備をすることになります。このような取り組みをすることにより、それぞれの地元の祭り文化への意識も高まるとともに、言い知れぬ連帯感が湧いて来るようです。十二年に一度、参詣することにより芸能技術の向上や、またそれぞれの地区の文化遺産を見直すいい機会にもなっていることと思います。しかし、時代の変遷に伴い、各地区の伝統ある大切なお祭りが規模の縮小あるいは開催不能など、危機に直面していることを耳にします。誠にさみしく残念なことではあります。そのような情勢の中ではありますが、早



期に取り組んだ結果、各地区からご理解とご協力を得ることが出来ました。おかげさまで二地区からの新規の参詣があり、当地区を含め九頭が集結いたしました。このことにより、私どもの記憶の中ではこれまで一番の盛り上がりを見た御開帳であったと満足しております。また、この二地区以外からも参詣希望があったとの話も聞いていますが、多くの神楽が参詣、集結することから御開帳は御神楽の甲子園とも例える人もいます。交流することにより、お互いの特色ある芸能文化を披露し、尊重し合うことはいい刺激ともなり、知見を拓げ目的をひとつにするもの同志の絆が強くなります。

よって、御開帳は各地区の祭り文化とともに、地域全体で感動を共有することができる芸能文化遺産であります。今、思いつきましたが、石井市長さんがおられます。

石井市長さんには、この式年大祭御開帳を大月市の文化遺産に登録してはいかかかと、この場をお借りいたしまして提案しておきますので、よろしく願いいたします。会場の皆様もどうか御賛同願います。(会場から拍手) ありがとうございます。満場一致でございます。(笑)

なお、今回の御開帳を機に神楽保存会を立ち上げた地区もあると聞いております。我が幡野においても前回の開催時に保存会を立ち上げ、祭り文化の伝承に努力しております。地域の祭り文化伝承に年齢、性別はありません。経験者が一人でも多くの後継者を育て、そこに居る者の役目として、地域の芸能文化遺産を後世に繋いでいこうではありませんか。今、引退を考えているあなた、(笑) 引退はありません。(笑) これも生涯学習であります。

結びに昨年の祭事につきまして、高いところから失礼のことと存じますが、御礼を述べさせていただくことをお許し願います。幡野区の先の正副区長さん、並びに祭典委員会の正副の会長さん、おられましたらお立ちいただき一緒にお礼を述べさせていただきたいと思います。

(会場から拍手)

崇敬を集め歴史に刻まれてきた先人たちの熱い想いを胸に地区住民は力を合わせ、平成最後の式年大祭御開帳を無事終了することが出来ました。奉幣祭、奉納神楽に絶大なるご支援とご協力を賜りました近郷八地区の参詣神楽の皆様、並びに参詣いただきました皆様方に謹んで敬意と感謝を申し上げます。誠にありがとうございました。(会場から拍手) 地域との絆を大切に歴史に刻まれた類いまれなる御開帳が世代を越えて伝承されていくことを願っております。これをもちまして、幡野正八幡神社式年大祭御開帳の発表を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

幡野神楽保存会規約

幡野神楽保存会規約
(平成十八年改六月制定)

(目的) 会員は互いに尊重し合い力をあわせ、伝統ある幡野神楽を後世に伝承させることを目的とする。

(会則) 幡野地区に居住する者、または幡野地区出身の者で、会に申し込んだ者、または幡野神楽をよくよく愛する者で目的に賛同し、会に申し込んだ者。

(役員) 相談役の他、会長一名、副会長一名乃至二名、運営委員として庶務一名、会計一名を含め五名以上を置く。

(役員選任及び任期) 第四條 役員選任は、任期は二年とする。ただし、再選は切らない。

(役員改選) 第四條 役員改選は、この規約に定めのないものは、役員会で決定する。

(規約改正) 第九條 この規約の改正は、役員会において改正する。

(役員会) 第六條 必要に応じ会長が召集し開催する。

(事業活動) 第七條 役員会において計画し実施する。

(未規定事項) 第八條 この規約に定めのないものは、役員会で決定する。



「御開帳」がもたらしたものの

**地域の
連帯感**

**文化遺産
見直し**

地域の絆

**都会と
の交流**

**環境美化・
自然環境の
保全**

【榎平コーディネーター】

杉本さん、本当にありがとうございました。これだけの貴重な、オリンピックなんて目じゃない、これを維持していく、しかしその地域の伝統文化に対する強い誇りとそれを守っていかねばならない強い責任感、地域に生きていかねばならないという強い想いをひしひしと感じました。それを次にどう繋いでいくのかということを試行錯誤しながら、乗り越えた時の喜びと感動の共有をすることによって地域の絆が深まっていった。非常に取り組まれた方々の言葉はすごく重く受け止めた次第です。時間が限られていますが、もし質問等ありましたらお願いしたいと思います。どうでしょうか。



【会場なし】

【榎平コーディネーター】

こういう歴史と伝統があるわけなんですけど、次世代を育てていくためには歴史を学ぶ機会を作っていかなければならないと思うんですね。小学校とかでやったり、そういったことは地区の中では何か取り組まれていますか。

【発表者 杉本 氏】

特別地区の中では若い人たちや子どもに歴史的な教育はないんですが、まあ、各家庭の中で代々話されてきて、口から口へ伝わって、幡野に生まれ育ったならその遺伝子の中で受け継がれていっています。



【榎平コーディネーター】

先ほどもありましたように、その姿を見て学んでいく。そういう継承の大切さを感じましたね。ありがとうございました。

それでは、最後の報告になります。一転しまして、大月短大の卒業生なんですけども、駅前の再開発、商店街の再活性化に取り組むために「まちづくり推進協議会」という組織が作られまして、そこでありがたいことに学生と、私も含めて短大から招聘していただいているんですが、その委員を務めている学生がこれまで市民の方々とディスカッションしながら、あるいはボランティア活動をしながら、そこで得たことをこれからの大月にどう活かしていけたらいいのかという、そういったアイデアを話していただくということです。それではお二人、よろしく申し上げます。

【発表者 川端 健徳 氏、長谷川 瑞希 氏（大月短大生）】

川端：ただ今、ご紹介に預かりました。大月短期大学 2 年の川端健徳と

長谷川：同じく 2 年の長谷川瑞希です。

川端：今回の私たちのテーマは「地域×学生」一より良い大月を目指すには一というタイトルのもと私たち学生が大月を盛り上げるためにどのようなコトをすべきなのか考えました。

長谷川：固い発表というよりは、皆さんと今の、今後の大月に関して考えていこうと思います。それでは、発表に移りましょう。

「地域×学生」
一より良い大月を目指すには一

大月短期大学2年 川端健徳(新潟県)
長谷川瑞希(福井県)

川端：まずこの発表について、何のために行うのかと申し上げますと、学生が地域に関わることで地域にどのような影響があるのか。そして私たち学生は大月市を盛り上げるためには何が重要なのかを考えるためにあります。

長谷川：そして私たちは表紙にありました通り、2 人とも県外出身です。なので、県外出身である私たちが大月市の活性化を客観的に考えることが出来るのです。

はじめに

目的

- 学生が地域と関わりを持つことで、どのような影響があるのか
- より良い大月を築いていくためには何をすべきだろうか

視点

- 市外出身の学生目線で大月市の活性化を客観的に考える

長谷川：ところで川端君、私たちは大月市に住んで 2 年程経ちますが大月市と言えば何がありますか？

川端：そうですね！



川端：観光名所の猿橋があり、あとは軽トラ市といったイベントをやっているイメージですね。

長谷川：そうですね、日本三大奇橋と呼ばれる猿橋や 1 年生の時に皆で登った岩殿山では綺麗な富士山が見えましたね。短大生もボランティアとして参加する「かがり火祭り」や「軽トラ市」も大月市のことを知れて楽しかったですね。



長谷川：その反面、大月市は抱えている課題があるけれど、川端君は何か考えられることはありますか？

川端：そうですね。どの地域にも共通している、人口減少や、大月市は東京から近いから都市部への人口流失が考えられますね。



長谷川：その通りなんです。その証拠にこちらのグラフをご覧ください。

2012年から2015年の4年間の大月市の総人口と転出のグラフです。1つ目のグラフが総人口を表す青色の棒グラフ、2つ目のグラフが転出、つまり大月市から人が出た数をオレンジ色の線グラフで表しています。

左にある青色の数字項目が青色の棒グラフ、つまり人口の数で、右端にあるオレンジ色の数字は人口が流出した数の項目になっています。

それでは、川端君このグラフをみて、何か分かると思いますか？

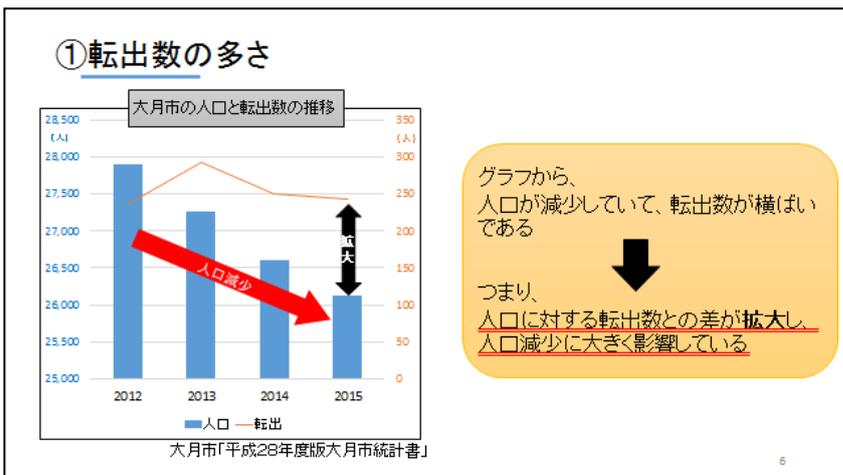
川端：そうですね。青色の人口の棒グラフからは、4年間で人口減少が激しくなっていますね。オレンジ色の線グラフは、2013年を除けば毎年約250人が大月市を離れていると言うことですね。

長谷川：そうですね。一見、何が重要なかわかりにくいかもしれませんが、人口が大幅に減少していて、転出数が毎年変わらず一定数出て行っていますね。2015年の人口と転出の差を見てください。

川端：あっ、2012年の人口と転出に差はないけれど、2015年をみると大きくその差がひらいていますね。つまり、人口に対する転出の差が拡大して人口減少に影響していますね。

長谷川：そうなんです。人口が減少する理由は、大月市を離れる人数が多いからなんですよ。

川端：なぜ、大月市を離れてしまうのでしょうか？



グラフから、人口が減少していて、転出数が横ばいである

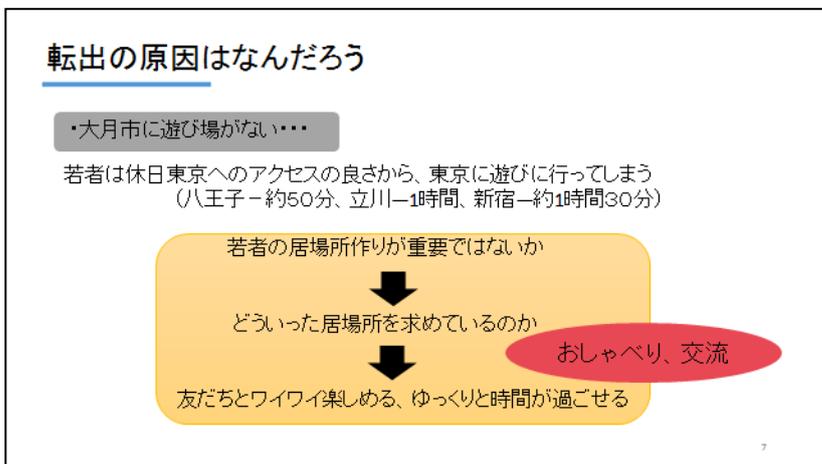
つまり、人口に対する転出数との差が拡大し、人口減少に大きく影響している

長谷川：考えられる原因として、若者の居場所、遊び場がないことが挙げられます。川端君は休日どこで遊びますか？

川端：休日は東京に遊びに行くことが多いですね。やはり大月からのアクセスがいいので遊びに行きやすいです。

長谷川：確かに、短大生は休日に東京に遊びに行くことが多く、特に八王子や立川、新宿に行きますね。

川端：ですが、そんなに毎週のように行かないです。そういう日は家で過ごしていますが、気軽に友達とワイワイしゃべったりするのは、騒音等の事を考えるとできませんね。私の周りの友達も気軽に誰とでも交流出来る場所が欲しいと言っていました。



長谷川：さらにもう一つ大月市には課題があって、それが空き家、空き店舗が多いことが挙げられます。

川端：駅前通りの歩いていると、シャッターの降りている店がちらほら見当たります。全国でも、山梨県は空き家・空き店舗率が高いですよ。やはりそれらが商店街の雰囲気や魅力を低下させる原因だと考えられます。学生から話を聞くと、お店を利用したいが、営業時間やメニューが表に出いていないので、

入りづらいという意見が多くありました。また、駅前の通りは街灯が少ないので、夜そこを通るのが怖いという声もありました。

長谷川：空き家、空き店舗はまち全体の雰囲気にまで影響しているんだね。では、なぜ空き家・空き店舗が何年も続いてしまっているのでしょうか。

川端：私たちはこれらの大月市の課題についてワークショップで話し合いをしました。ワークショップは月に1回の頻度で開催されていて、商店街関係者と行政、そして私たち学生が集まって大月市の事と、また商店街の活性化についてどうすべきか話し合いました。長谷川：真剣に話し合っていますね。右上の図はSWOT分析と呼ばれる企業の経営戦略において使用されるものです。地域政策においてもその手法を使うことで地域の強みや弱みを整理できます。

川端：この手法を使って、大月市を見てみましょう。黄色の枠は長所で青色の枠が短所だと考えてください。なおこれらは、ワークショップから出された意見を参考に作成させていただきました。

長谷川：長所の部分は富士山の眺めが美しいところや山梨県の玄関口であることが挙げられますね。

また、トレッキング客やインバウンド客が増加している一方で、短所として東京への人口流出や高齢化などが挙げられますね。ここから学生が多く東京からは身近に感じられる自然が豊かな街が大月であるといえます。話が少しずれてしまいました。話を戻し、改めて空き家・空き店舗がつづく原因を考えてみましょう。

② 空き家・空き店舗率の高さ

空き店舗が増加したことで、商店街の雰囲気全体の魅力の低下につながり、利用者が減少する



さつき通りの入り口

- ・営業時間やメニューの表示がないから入りにくい
- ・街灯が少ないから、夜歩くのが怖い
- ・車通りが激しいので危険!

学生の意見

なぜ空き家・空き店舗が続いてしまうのだろうか



ワークショップ

- ・月に1回行われる、商店街関係者×行政×短大生の話し合い
- ・テーマ: 大月市を盛り上げるには、商店街を活性化させるには



大月市はこんな街？

強み (Strengths)	弱み (Weaknesses)
<ul style="list-style-type: none"> ・富士山の眺めが美しい。 ・岩殿山がある(観光資源がある) ・山梨の玄関口(特急停車口) ・月短生(約400人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・インバウンド客が通過 ・変化を好まない傾向 ・集客性のある観光資源を活かせていない ・PR不足、情報案内が不足 ・空き家、空き店舗が増加 ・高齢化の加速
機会 (Opportunity)	脅威 (Threats)
<ul style="list-style-type: none"> ・トレッキング来訪者の増加 ・富士山インバウンド客の増加 ・コンパクトシティを目指す ・東京2020年オリンピック開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・大月バイパスの開通 ・高齢化の加速 ・東京に近いため人口が流出 ・周辺に強力な観光地がある(富士山・富士急ハイランド) ・大月市の財政の限界

➡ 学生が多く、東京から身近に感じられる豊かな自然の街

空き家・空き店舗が借りられない！？

- ・ワークショップでの経営者の話

大月市にお店を立ち上げようと思った時、物件情報が少なく、借りるのに大変だった。

物件の交渉したが、断られた。

➡ 所有者が物件を貸そうと思っていない

空き家・空き店舗が続いているのは、物件情報が少ないことと貸さない所有者が多いこと

経営者の方



長谷川：ワークショップでの経営者の話によるとお店を立ち上げる際に物件の情報が少なく、借りるのが大変だった。や、物件の交渉をしたが断られた、という話を聞きました。

川端：所有者の方は物件を貸そうとは思っていないんですね。つまり、空き家、空き店舗が続くのは、物件情報が少ないことや貸さない所有者の方がいらっしゃるからなのですね。



長谷川：では、これらの課題を解決するにはどうしたらいいと思いますか。

川端：転出を防ぐ解決策として、大月市に新たな商業施設を建てるというのは少し難しいと思います。しかし、学生は毎週のように東京に行っているワケではありません。そのことからショッピングや娯楽施設というよりは交流中心の空間を作ることによって若者の転出を抑えることが出来るのではないのでしょうか。

長谷川：確かに、ショッピングをするのも楽しいですが、やはり友達や住民の方とお話したいですよね。

川端：そうなんです。これは他の短大生も同じようなことを考えている人がとても多いんです。そこで私の考えた提案が、学生や住民が気軽に利用できるコミュニティスペースの設置です。学生同士の話し合いや、住民と学生との何気ない会話など交えることで人と人の距離が縮みますよね。よく外で話し込んでいる学生や立ち話をしている住民の方を見かけます。そんなとき交流の場がもっと近くにあれば便利ではないのかと思います。経済学にも「人との繋がり」は実際には目では見えないものの、それが社会に良い影響を与えることが証明されています。「人との繋がり」は治安維持や地域経済の発展など良い効果をもたらしています。

長谷川：「人との繋がり」は一見軽く見える言葉ですが、それがいかに重要なキーワードになるか考えさせられますね。

転出の課題解決

①大月市=交流>娯楽

大月市に新しく若者向けの買い物や娯楽施設を建てるのは難しい。したがって、ショッピングや娯楽より交流やゆとりを中心とした空間作りが重要といえる。

例)“交流の場”創出
学生と住民が交流できるようなコミュニティスペースの設置

13

川端：続いて、空き家・空き店舗の課題を打破する方法として、まず雰囲気改善をしていくべきだと考えます。新しいお店をいきなり誘致するのは簡単なことではありません。なので、今あるものから変えていくべきです。例えば学生の意見に“利用したいけどメニューがわからない”というものがありますが、お店の前に営業時間・メニューの表示をすることで解決できます。「夜、街灯が少なく怖い」という意見にもちょう

空き家・空き店舗の課題解決

①景観改善や空き店舗の活用法の提示→店の景観、雰囲気改善

具体策)営業時間・メニューの明確な表示
アーケード、街灯や提灯の設置
歩行者天国の導入
店外で飲食

②空き店舗の活用方法→空き店舗を利用した交流事業

具体策)学生のチャレンジショップ

14

ちんを飾ってみたりすることで雰囲気づくりに繋げるのもいいですね。

長谷川：あと、ワークショップで出た意見にお店の外に椅子や机を並べて皆で食事するのもお店を利用することに抵抗がないというのがあって、私もそれだったら外で食べてみたいと思いました。

川端：はい、私も友だちを呼んで外で食べてみたいです。もしかしたらそこで、住民の方たちともお話ができるかもしれないですね。

長谷川：空き店舗をいざ使うとなったら、短大生でチャレンジショップをやりたいです。私たちは経済だけでなく、経営についても学んでいるので、貴重な経験になり、将来に活かせると考えています。実際に、経営に携わりたいと思っている学生も少なくないです。

川端：学生がチャレンジショップをすることは、全国的に見ても珍しい例ではないですよ。その中の1つに、栃木県の足利市の専門学生や高校生が中心地の賑わいの創出と学生の起業心を育むために空き店舗を活用している事例もあります。この事例のポイントに、店舗のレイアウトから仕入れ、販売や接客まで全て学生だけでしていることです。

長谷川：写真をよく見ると、手作りお菓子や手作り雑貨を販売しているのですね。

栃木県足利市:チャレンジショップの事例

目的 : 空き店舗などを活用し、中心街の賑わいの創出と学生の起業心を育むために企画された
活動内容: 店舗レイアウトから装飾 仕入れ・販売及び接客に至るまで全て学生が担当している



川端：はい。では、長谷川さん。仮に短大生がチャレンジショップを行うとしたら、何をしたいですか。

長谷川：私はカフェを運営してみたいです。駅前の空き店舗を利用すれば、観光客や地元住民、そして学生に利用しやすいですね。また、転出の課題解決策に“交流の場を作り”、「人との繋がり」を生み出す

ことをお話ししましたが、カフェをすることで交流が増えるので、転出の課題を解決できますね。以前、「学生カフェ」をやろうと取り組んでいたグループがありました。住民のヒアリング調査を何度も行い、一件の空き家を使うことになりました。しかし、建物を借りるために所有者に連絡しましたが、連絡が取れないまま結果、諦めてしまいました。そういったことも踏まえ、学生は本当にチャレンジショップでまち

大月短大生が
チャレンジショップを行うとしたら・・・

- カフェを経営してみたい(意見多数)
駅前の空き店舗を使って観光客や地元住民、そして学生にも利用してもらえようなゆとりのある空間を作る
- 古本を取り扱う中古販売店(学生に需要有)
大月市には本屋が少なく、使わなくなった教科書や参考書を取り寄せたり、いらなくなった本を買い取ってもらおう



を盛り上げたいという気持ちはあるんですね。川端君は、もしチャレンジショップを行うとしたら何をしてみたいですか？

川端：そうですね、僕は本を読むことが大好きなので、古本屋をやってみたいですね。大月市には本屋が少なく、学生はネットで注文したり、また電車で本屋まで行くことがとても多いです。ネットは手数料や運送費がかかったりしますし、電車で行くのは時間やお金がかかって本を一冊買うだけでも大変だったりします。なので、短大生の卒業生などが使わなくなった教科書や参考書を集め、新入生に向けて販売しま

す。

長谷川：売る人は荷物の整理ができますし、買う人も通常の値段より安く購入できますね。

川端：そうなんです。また、読まなくなった小説や新書などの本も買い取ることで、色々な人に利用してもらえますよね。

長谷川：最後になりますが、私の方からまとめといたしまして発表させていただきます。今回の発表を通して、主に大月市における転出、そして空き家・空き店舗の問題についての解決に向けた提案を僭越ながらさせていただきました。こういった問題に対し、少しでも学生が関わっていくことで地域活性化の一助となっていくことを少し証明することができたのではないかと思います。私たちは、先程お伝えの通りワークショップや自身の研究の勉強において今大会の趣旨でもあります、地域政策への関心を持ち、学び始めることが生涯学習になるという意味で、大変素晴らしいスタートが切れたのではないかと思います。我々は4月からどちらも他の大学に編入し、このスタートを大切に、さらなる地域政策の勉強により精進して参りたいと思います。拙い発表ではございましたが、以上を持ちまして我々、短大生からの発表を終了させていただきます。ご清聴ありがとうございました。

まとめ

- ①学生が地域に関わることで、地域活性化に貢献できる一助になる
- ②関心を持ち、学び始めることが生涯学習になる
- ③これからの私たち

17



【榎平コーディネーター】

はい、どうもありがとうございます。学生や市民の方々の思っていることをですね、そういう事やってみたい、こういう事やってみたい、それを実現していくことというのが実はまちづくりに繋がっていくというお話でした。いかがですか、誰かご質問ありますでしょうか。

【質問者B 女性】

学生の皆さんの客観的な見方は大変ありがたいんですけど、私は大月市内から来ました。

いつも不思議だなあとすることがあるんです。先ほど、人と人との繋がりとおっしゃいました。考えていただきたいです。あの短大の周り、ほとんどがお年寄りなんです。雪が降った時、お年寄りが雪かきをしているんですよ。そこをお若い学生の皆さんが通って行くんですよ。誰一人、学生の皆さんがスコップで雪かきをしている所を見たことがないんですよ。そういうことをしてはいけないんでしょうか。ある方に言ったら、学生がもしそこで事故があったり、けがをしたりらまずいからだと、おっしゃった方がいたんですけど。榎平先生、それが正しいんでしょうか。



【榎平コーディネーター】

そうですね、私が答える前に学生諸君はどうですか。

【発表者 長谷川 氏】

そうですね。昨年あたりに雪が何センチか降ったのを私たちも体験したんですけど、自然と道が除雪されていたというのは、私たち自身、気づかなかつたし、当たり前だと思っていたんですね。私たち二人が福井と新潟県出身という雪国育ちだったので当たり前だと思っていたことは、最初に謝るべきことだと思います。私たち自身、ボランティアサークルというものがありまして、私が行った実績の中では、犬の散歩というのがあって、依頼者の方は足腰が弱くて、犬の面倒を見てほしいということで週三回ほどしました。ぜひ、そういったお困りのことがあれば、短大に言っていただければ、私たちボランティアサークルだけではなく短大生が協力してやっていくと思うので、そういったご意見も積極的に行動で示していきたいなと思っています。

【榎平コーディネーター】

いかがですか。

【質問者B 女性】

ぜひ、自発的に行っていただきたいと思います。

【榎平コーディネーター】

はい、ありがとうございます。昨年のこの大会で、大月出身ではなくて、一回外に編入し



て大月に戻ってきて就職した市の職員の寺島さんの話を聞いた時にも雪かきの話が出ていましたね。数年前に大雪が降った時に学生として何かできないかということで市役所に行ったり、短大事務局に問い合わせしてみたんだけど、そういうことを市民の方々に繋ぐことはこれまでやってこなかったし、そういう体制もないんで、ちょっと勘弁してくれということ言われたんだそうです。ですから寺島さんは、私とその仲介役を買ってでたいという決意を表明してくれました。残念ながら今年は雪が降ってなくて検証できていないんですけども。そうですね、そういう仕組みがないとなかなか難しいと思いますね。何かしたいんだけど、それを誰に言ったらいいのか、ですね。先ほど自発的にとおっしゃっていましたが、自発的にするには、普段のコミュニケーションですよ。コミュニケーションがなくて、いきなりやらしてくれという勇気もないと思いますし、誰だか分からない人から声を掛けられても躊躇してしまう部分もあると思います。やっぱり普段のコミュニケーションがあった時に初めて繋がりが生きてくるとと思いますよね。非常に大きな課題です。市民の皆様と短大生とのコミュニケーションは本当に大事だと思います。ありがとうございました。



■ 講評

【榎平コーディネーター】

4名の方々から貴重なお話をいただきました。改めまして、発表者の皆様に拍手をお願いしたいと思います。(会場から拍手)

最後にみなさんの報告をお聞きしまして、私なりに講評をと言いますとちょっと大袈裟なんですけど、お話をさせていただきたいと思います。少しお付き合いをお願いします。大月を「文化や芸術の香りただようまち」にしよう！というタイトルをつけてみました。これまでお話していただいた方々の知見を活かしていくため、それを活かすことによって大月がどう輝いていくかということ



ことをタイトルに込めてみました。がその前にですね、大月市のキャッチフレーズってご存知でしょうか。市役所の人たちはもちろんご存知だとは思いますが、「緑とせせらぎと未来のまち 信頼と協働のまちづくり」というキャッチフレーズなんです。これ、どうでしょう。今日、和田さんのお話を聞いていただいて、「緑とせせらぎ」。せせらぎはちょっと違うかもしれませんが、「未来のまち」は皆さんのお話もそうでした。あと、短大生。「信頼と協働のまちづくり」、先ほどのご意見にもありました人と人との繋がりですね。これ、非常にいいキャッチフレーズだなあと私、感動しました。ちなみにこの郡内地域のキャッチフレーズも調べてみました。まず、都留。これは大学のまち、あとはリニアですね。また、上野原は「夢と希望あふれる快適発信都市」。富士吉田は「富士の自然と文化を活かし ともに築く 自立と創造のまち 富士吉田」

■ 大月市のキャッチ・フレーズは？ 「緑とせせらぎと未来のまち 信頼と協働のまちづくり」

- 都留市：「人いきいき・リニア翔(かけ)る学園の城下町つる」
- 上野原市：「夢と希望あふれる快適発信都市」
- 富士吉田市：「富士の自然と文化を活かし ともに築く 自立と創造のまち 富士吉田」

講 評

大月を「文化や芸術の香りただようまち」にしよう！

をタイトルに込めてみました。がその前にですね、大月市のキャッチフレーズってご存知でしょうか。市役所の人たちはもちろんご存知だとは思いますが、「緑とせせらぎと未来のまち 信頼と協働のまちづくり」というキャッチフレーズなんです。これ、どうでしょう。今日、和田さんのお話を聞いていただいて、「緑とせせらぎ」。せせらぎはちょっと違うかもしれませんが、「未来のまち」は皆さんのお話もそうでした。あと、短大生。「信頼と協働のまちづくり」、先ほどのご意見にもありました人と人との繋がりですね。これ、非常にいいキャッチフレーズだなあと私、感動しました。ちなみにこの郡内地域のキャッチフレーズも調べてみました。まず、都留。これは大学のまち、あとはリニアですね。また、上野原は「夢と希望あふれる快適発信都市」。富士吉田は「富士の自然と文化を活かし ともに築く 自立と創造のまち」という富士を前面に押し出していますけどね。これらと比べてみても大月のキャッチフレーズはととてもいいと思うんですけどね。非常に中身のあるキャッチフレーズで、こういったまちを目指していくために文化や芸術を大切にしていくことが大事なんだとみなさんのお話を聞いて、強く感じたところでもあります。

まず、先ほどの短大生の話にもあったように、何で、大月から若い人が出て行ってしまうのか。いろんなことが考えられると思います。例えば、やりがいのある仕事がない。そうかもしれないですね。また、四年制大学がないから。若い人が田舎から出て行ってしまうというのは、やっぱり進学というのが一つの要因ですね。短大はあるんですけど四年制大学はないですね。ということは若い人が進学したい場合には外に行っ

なぜ、若者が大月から出ていってしまうのか？

- やりがいのあるしごとがないから？
- 四大がないから？ (短大はあるけど)
- 娯楽や刺激が少ないから？
- 若者がいないから？
- 都会からすぐ帰ってこれる (=「忘れがたきふるさと」ではない) から？

→大月に「ないもの」を求めて出ていってしまう、という「ないものねだり症候群」が蔓延！

しまうということがあります。また、娯楽や刺激が少ない。あと、類は友を呼ぶではないですけど、若者が少ない。さらには、これは大月の特徴であると思うんですけど、わずか1時間で東京と行き来ができるということは大月というふるさとに若者がどういう心情になるかという、決してふるさとと都会という心理的な距離というものをあまり感じていないのではないか、ということですね。ということは「故郷（ふるさと）」という歌の中に「忘れがたき故郷（ふるさと）」という歌詞があります。ふるさとに思い入れがあるんだけど、帰りたくても帰れないという郷愁を歌った歌です。でも、大月は帰ろうと思えば1時間で帰ってこれてしまう。そういう田舎なので、それほど強い思いをもっているわけではない。だから、気楽に出てしまう。このようなことを考えると赤字で書いてある「ないないないないない」のまさに「ないもの」を求めて出ていってしまうということですね。いわゆる「ないものねだり症候群」が大月に蔓延しているんじゃないかというふうに思っています。じゃあ、ないものばかりを見てちゃいけないよと、よく聞きますよね。そのことについては後で話をしますけれども。

それでは、もしこのまま若い人がどんどん出ていってしまったら、大月はどうなっちゃうのかということで2025年くらいに、これは大月のことだけではなくて、日本全体ですけれども、団塊の世代っていうのが75歳を超えてしまう、いわゆる後期高齢者になってしまう。そうすると、実に国民の3人に1人が65歳以上、そして5人に1人が75歳以上と

いう、こういう社会に日本は突入していくわけですね。そして、若い人がどんどん出ていってしまうとさらに拍車がかかってしまうということが言えます。となると地域の存続ということが非常に大きな課題になってきますね。英語でいうとサステナビリティといいますね。持続可能か否かということが非常に問われることになります。持続可能性というのはいろいろあります。経済、自然・生活環境だとか、あるいは福祉、医療などこういったもの、あるいは教育、こういった社会的なサービスを主として提供できなくなっていくという大きな問題がのしかかってくるわけです。本当にそう遠くのことではないわけです。

こうなってくると私たちは大月を次世代にどう引き継いでいったらいいのか、というのが非常に大きな課題になっています。そんなの責任ないよとか、関係ないよとか、今幸せだからいいよとかいう人がいるかもしれませんが、今ここで幸せに生きていられるのはいろんな人の助けがあり、支援を受けながら

生かしてもらっている、ということを考えなくちゃいけないわけですね。となると、私たちが「生きていくということ」は次世代に引き継いでいく責任があるというふうに考えることができるわけです。あんまり責任、責任言うと肩が凝っちゃうかもしれませんが、しかし、ここで生きていくためには次に引き継いで大月を残して発展させていく責任があるんだとい

このままだと、大月の10年後どうなってしまうのか？

- 地方都市では、都市機能を維持するためのサービス提供がままならなくなってしまう
- 2025年の日本は、「団塊の世代」が75歳を超えて後期高齢者となり、国民の3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上の「超・高齢化社会」に
- サステナビリティ（持続可能性）の観点からのまちづくり（経済、自然・生活環境、福祉など）が必要不可欠

**→次世代にこの大月をどう引き継いでいくのか？
いま生かせてもらっている私たちの「責任」でもある**

「あるもの探し」
→「大月にしかないもの」って、何だろうか？

- 自然が豊か？ → 大月だけではありません！
- 短大がある？ → 大学は他にもたくさんあります！
- 富士山の眺めが良い？ → 眺めだけでは食っていきません！
- 桃太郎伝説がある？ → 全国にいくつもあります！
- 人が優しい？ → 世の中、意地悪な人はあまりいません！

**→「ありふれたもの」を「かけがえのないもの」に変換する「知恵（創造力）」が必要！ →「地域資源みがき」
(即興的な革新性・創造力：インプロビゼーション)**

うことですね。それでは大月にないものばかり見ているんじゃないくて、あるものを探していこう、大月の良いところを探していこうというふうになってくるのですが、それでは大月にしかないものって何でしょうか。今、いろいろとお話をいただきました、それぞれかけがえのないものです。例えば、自然が豊かということが大月ではよく言われます。しかし、別に自然が豊かということは大月に限った話ではありませんよね。自然が豊かなところはあちこちにあります。また、別に短大があるということが大月の宝だと言ってくれることは非常にありがたいんですけど、短大は他にもたくさんあります。富士山の眺めが良い、というふうに大月から見える富士山は眺めが綺麗です。でも、眺めだけでは食っていきませんよね。良い眺めだって言って、仕事があるわけじゃありません。桃太郎伝説がある、というも全国にいくつもあるわけです。人が優しいっていうふうに大月の人は優しいとよく言います。学生たちも大月の人は優しいって言います。しかし、全国探していったら別に意地悪い人が全国あちこちにいるわけではないです。大月だけ人が優しいわけではないです。というふうに考えると大月にしかないものってあんまりないんじゃないかと思えます。大月はここがいいから帰ってくるはずだとか、こういう素晴らしいものがあるから自然に、自動的に子どもが増えるということは全くありえないですね。ありふれたものを私たちはどうやってかけがえのないものにしていくか、ということを考えていかなければならない。じゃあ、ありふれたもの、自然が豊かあるいは富士山、桃太郎伝説、人と人との繋がり、こういったものをどうやって大月においてよりそれを磨き上げていくのか、より素晴らしいものにしていくかという努力、それをいろんな形で発展させていくための知恵ですね。この知恵っていうものを生み出していくことが大事だと思います。今あるものをみんなでみがき上げていくという、他の地域の人たちが大月は違うなあと思ってもらえる創造力が必要となると私は考えています。「地域資源みがき」と私は言っていますが、みがかれていくプロセスが非常に大事だと思います。井上さんは音楽をやってらっしゃいます。音楽の言葉として即興的という言葉があります。気持ちを合わせていろんなアレンジを加えて、その場にいる人たちを喜ばせる。即興という言葉がよく言われます。実は、地域づくり、まちづくりもそんなんです。あるものを外から来る人たちに合わせてうまくアレンジしていく、そして喜ぶ。これを地域づくりにおいてインプロビゼーション、このインプロビゼーションを生み出していくという知恵、創造力が必要になってくるのかなあと思えます。

次から次へと湧き出してくるアイデア、こういう時はこうしよう、こういう物をこう使ったらどうか、というアイデアというものが湧き出してくるという創造の場というものが大切

なんじゃないかなと感じています。じゃあ、これをまちづくりということに合わせて考えていくとどういうことが言えるか。よくまちづくりは、ひとづくりとよく言いますね。先ほど、次世代を担っていく人たちを育てることが大月の課題だとおっしゃっていましたが、そこでいろんなアイデアを出していく、こうしたらどうか、ああしたらどうかと

いうことを常に考えていく、こういう人々を生み出していくというひとづくりが大切です。じゃあ、このひとづくりなんですけど、二つ考えがあります。一つは自分づくり。これは先程、井上さんから話がありました、次世代を担う人を育てること。杉本さんからのお話にも

アイデアが湧き続ける「創造の場づくり」が大切！

- 「まちづくり」は、創造力ある「ひとづくり」
- 「ひとづくり」は「自分づくり」と「人育て」
 - 「自分づくり」→自己肯定感、自己有用感を育む
 - 「人育て」→コミュニケーション、継承・持続性
- 「ひとづくり」の場である地域から、アイデアの創造と実践の積み重ねを持続しよう！

→ **「生涯学習」の目的**

ありましたね、背中を見せる、カッコいいな、俺もやってみたいなと思ってもらうことが必要ですね。自分が成長して、それを次世代がやってみたいな、というふうに思ってもらう。そういう自分づくりということがまず、大事ですね。そして、自分を高めていくプロセスの中で次世代を担う人たちを育てていく。この自分づくりと人育て、これを常に循環させていく、繰り返し行っていくことがひとつづくりだと思っています。そのひとつづくりを通じて、まちが魅力的になっていく、継続性を生み出していく、というふうに考えていますね。先ほど言った自分づくりというのは自分が成長することです。成長することによって、自分を肯定することができます。自分は頑張っているなあという自己肯定感、実は今の若い人はこの自己肯定ができないんですね。さらには先ほどボランティアという話もありましたが、自分が何かの役に立っているという感覚もそこから生まれてきます。じゃあ、人育てっていうものは何なのか。先ほど井上さん、杉本さんからもお話がありましたけれども、常にコミュニケーションをしていく、世代と世代の間のコミュニケーション、これが大事だと、その中で次世代を担う人たちが育っていく、これが大切ですね。コミュニケーションの中で生まれてくるのが継承、持続性という今日、みなさんのお話の中にあつた大事なキーワードに繋がっていきます。そして、このようなひとつづくりが行われる場というのがなんととっても地域ですね。地域というところで自分づくり、ひとつづくりが行われている。ひとつづくりが行われている地域でこれからどうしたらいいのかというアイデアがどんどん出てくる創造、そして、創造だけでなくさらに実践する場が地域なんですね。ここで持続性のある地域というものが生み出されてくる。そして自分づくりと人育てということが、この会場で共有している言葉が、実は「生涯学習」ということなんです。そして、次世代と交流しながらコミュニケーションをしていく、引き継いでいく、これが生涯学習なんです。

じゃあ、生涯学習ですから学ぶということなんですけど、「学び」っていうのはこの三つの要素から出来ています。この三つは何かというと一つは「知識」ですね。もう一つは得た知識をどうやって使っていくのかという「能力・技能」という使い方ですね。そしてもう一つは「情熱」です。情熱という言葉は分かりづらいかもしれませんがね。まず、知識というのは今日も和田さんのお話であつた資源、自然とか歴史とか文化を学ぶということです。さらには今、地域に置かれている現状を認識するということです。さらに、そういう課題に直面した他の地域がどういう取り組みをしているか、これも大切な知識。こういったことを学び合わなければならない。じゃあ、能力、技能って何かというと、得た知識を自分たちの地域に対して応用していくための思考力、あるいは判断力、そして表現力、そして共感する力、これは大切ですね。人と人が理解し合う、共感し合う。最後に情熱とは何かというと態度ですね。いくら知識があっても、ノウハウを知っていても情熱がなければ、地域は動かないし、実践されていきません。しかも誰かのお任せではいけない。主体性が大事です。主体性を持って多くの人たちと協働しながら学ぼうとする態度、これが情熱になります。この三つを学ぶことが生涯学習にとって非常に大切なことになります。特に地域づくりにとっては大事です。どうやって学んだらいいのということですけど、これは学生からアイデアがありました。地域の中でワークショップ

何を、どうやって学ぶ？

- **「知識」 + 「能力・技能」 + 「情熱」 : 学力の3要素**
 - 「知識」 → 資源（自然・歴史・文化）、現状認識、他地域の実践
 - 「能力・技能」 → 思考力、判断力、表現力、共感力
 - 「情熱」 → 主体性を持ち、多様な人々と協働して学ぼうとする態度
- **<地域ワーク・ショップ> テーマを決めてワイワイ・ガヤガヤ意見交換・コミュニケーション**
 - 普段の生活で感じていること・仕事の中で感じたことなど、それぞれが持っている経験や知識を共有し、未来の地域の姿を描きながら、いま自分たちでできることは何かを考え、実践する（フューチャー・デザイン）

プというものを重ねていく、これがすごく効果的でまちづくりにおいて非常に大切だということです。老いも若きもいろんな人たちが意見を出し合う、そしてコミュニケーションをしながら、その中で普段感じていること、いろんなことを出し合いながら、知識を共有する、そして将来を描きながら実践していく、こういうことを行う場としてワークショップが注目されています。ぜひ、こういうことを私たちはこの大月でも積み重ねていかなければならない。そして、これは決して行政任せではいけません。当事者意識、自分たちの意識として持たなければなりません。地域について

学んでいく生涯学習は一人で考えたり、学んだりすることではありません。みんなで考えていく、学んでいくということだと考えています。もう一度整理しますと、住民が参加していくこと、ワークショップ等で。さらに行政も問題提起をしていかなければならない、そんな現実的な問題があります。こういったことをやりたいってなった時に

地域のことは自分たちのこと：「当事者意識」を持とう！

- ▶ **「地域について学ぶこと」は「みんなで考えること」**
 - ▶ ボトムアップ型の住民参加＝ワーク・ショップの重要性
 - ▶ 行政からの問題提起も必要：ファシリテーターとしての市職員の役割
 - ▶ 学びの場としての「小さな拠点」＝いま公民館がアツい！
 - ▶ フラットな人間関係（多世代交流型コミュニティ）を創る場である公民館の役割
 - 長野県飯田市、島根県などでは、公民館で地域課題を話し合ったり、伝統芸能の伝承活動や娯楽・芸能活動の展開を支援する事業を実施
- ▶ **人が学び合い、地域を磨き、内面から輝いている場所に、人は共感し、魅力を感じる！→究極の移住政策は「生涯学習」**

行政はサポートする役割が求められます。そして、そういう場として、ここにも公民館に関わっている方々がいると思いますけど、改めて公民館という場が生涯学習の場として、非常に注目されています。やっぱり、人間関係、コミュニケーションが大事だということで、そういった場として役割を改めて考えていかなければならない。具体的な例として、長野県飯田市や島根県は手を挙げて、公民館をその地域の中の拠点として、売りどころとして育てていくという取り組みを盛んにしています。そういう場が地域の中にあって、人々が地域を、地域資源を磨いていく。そして、外から見た時にそういう学び合い、磨き合っている地域というものはコミュニケーションを取り合っていて、魅力的な地域なんですね。そういった地域こそ住んでみたい、行ってみたいとなって観光、移住に繋がっていくのかなと思います。そういった意味で究極の移住政策、もし人を増やしていくこと、大月のファンを増やしていくことを考えるならば生涯学習というものを重ねていくことがこの話の結論になっていきます。



最後ということですが、歴史、伝統、芸能ってものを磨き上げている人々の団体、地域のお話を聞いて、学びを重ねながら地域資源を磨き合っていくことが大事なのかなあと感じます。やはり、文化、芸能、芸術ってものを仕事にしていくことも大切なんですね。最近、産業のことが特に桃太郎伝説が注目されていますけれども、私は今日のお話で伝統的な神楽、さらには岩殿山が山岳信仰の場であるということを改めて確認いたしました。わずかこれだけのところにあれだけの山岳信仰、霊山がある地域っていうのは、きっと大月を除いてないと思うんですね。こういったところの山岳信仰の場を体験型観光とうまく結び付けて、一つのアイ

デアとしてもいいですし、また井上さんからお話があったように音楽があちこちでされるようなそういったまちづくり、それも魅力的なまちだと思います。高校卒業するまでに一つでも楽器が弾けるような、そういった子どもたちが育つまち、すごく魅力的ですね。まちまちでちょっとしたイベントでも手作りのもてなしの一つになるとと思います。大月出身者の人が結婚する時に手続き、どっちに行くの？となった時に大月吹奏楽団が演奏してくれるような結婚式をしてくれる、こういったことを積み重ねていくことが非常に大事だと思います。駅前がちょっと寂れているわけですが、よく言えば昭和レトロ、懐かしい雰囲気を活かしていくこともできる。いろんなことを考えながら、それを積み上げていく。これがこれからのまちづくりにおけるいろんなアイデアを出し合える考え方が大切だなあと感じます。そこでの

キーワードはやっぱり若者だとか、あるいは外から来て大月を良くしたいといった人たちの声を大事にしていくことがあると思います。そのためには、空き家、空き店舗といった物を活用していく、活用しやすい環境を生み出していくことが大事なことだと思います。どうか皆さん、焦ってはいけない、着実に大月のファンを増やしていくことが大事だと思います。文化を大切にすまちとして金沢というところがあります。金沢の21世紀美術館初代館長の箕さんという方が「芸術・文化は、創造性あふれる将来の人材を養成する、未来への投資である」という言葉を残しています。まさにこれは、これからのまちの姿を表す、そしてそれを行政も地域の人たちも未来をつくるための投資をすることを考えていくことが大事であるというふうに、まさにその通りですね。もう一度大月を、私は好きなまちと確認したいと思います。緑とせせらぎ、地域の資源ですね、それを繋いでいくこと、繋いでいくための努力、そのためには信頼と協働、こういったまちづくりをして初めて進んでいけると、私たちは確信をもたなければいけないと思います。ぜひ、みんなで力を合わせて、「文化や芸術の香りただようまち」にしていこうじゃありませんか。長時間になりましたが、本当にご清聴ありがとうございました。

さいごに：学びと文化の香りがただよう大月に！

暮らしを豊かにする文化・芸術と、産業との融合

- ▶ 伝統芸能の創造産業化（神楽・山岳信仰+体験型観光 など）
- ▶ 高校卒業までに1つは楽器が奏でられる人づくり、音楽を通じたもてなしのまち
- ▶ 昭和レトロの雰囲気を感じられる商店街の活性化や「まちゼミ」開催

特定産業に限定せず「小さな経済」を積み上げて移入代替型・循環型経済を目指そう！

- ▶ やる気のある若者や外部人材が活躍できるまちにしよう
- ▶ 既存ストック（空き家、空き店舗、空き工場など）を活かそう
- ▶ あせらず、でも着実に「大月ファン」を増やしていこう！

「芸術・文化は、創造性あふれる将来の人材を養成する、未来への投資である」

（金沢21世紀美術館初代館長・箕豊（みのゆたか）氏）

「緑とせせらぎと未来のまち 信頼と協働のまちづくり」

みんなで力を合わせ、これからの大月を

「文化や芸術の香りただようまち」にしましょう！

ご清聴ありがとうございました！

第 57 回大月市生涯学習推進大会 〈アンケート用紙〉

お忙しいところ、ご参加くださりましてありがとうございます。
今後の参考とさせていただきますので、以下の問いにお答え下さい。

◎ あなたご自身について教えてください。【該当するものに○印】

男・女 (10歳代～20歳代 30歳代～40歳代 50歳代～60歳代 70歳以上)

1) ご職業はどれに当てはまりますか？

ア. 自営業 イ. 勤め(全日) ウ. 勤め(パート・臨時) エ. 学生
オ. 専業主婦 カ. 無職 キ. その他()

2) 今回の大会を何で知りましたか？

ア. ポスター・チラシ イ. 知人・友人からの案内
ウ. HP(ホームページ)・FB(フェイスブック) エ. 学校からの案内
オ. 公民館からの案内 カ. 所属団体からの案内 キ. その他()

I 大会に参加した動機について教えてください。

- ① 発表内容に関心があるから
- ② 取り組んでいる課題に直接的に役立ちそうだから
- ③ 仕事や地域活動の参考になる情報が得られそうだから
- ④ 生涯学習全般に興味があるから
- ⑤ コーディネーター・パネリストに関心があるから
- ⑥ 公民館や学校等から案内があったから
- ⑦ その他()

II 全体構成や日時設定などはいかがでしたか？【該当するものに○印】

- ① ちょうど良かった
- ② 開会行事が長すぎる
- ③ シンポジウムが短すぎる
- ④ シンポジウムが長すぎる
- ⑤ その他()

III 今回のシンポジウムは、全体としていかがでしたか？【該当するものに○印】

- ① とてもよかった
- ② よかった
- ③ どちらともいえない
- ④ 不満だった
- ⑤ とても不満だった

(上記を選んだ理由：)

● ご自由にお書き下さい。(感想又は、今後の大会で採りあげてほしい課題等)

ご協力ありがとうございました。

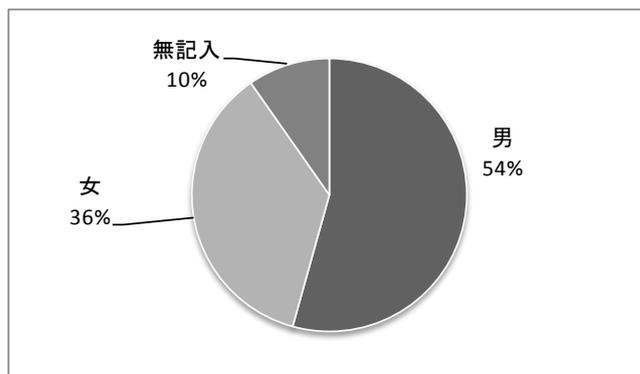
第57回大月市生涯学習推進大会 アンケート結果

アンケート件数:186
アンケート回収率:47%

◎ あなた自身について教えてください。

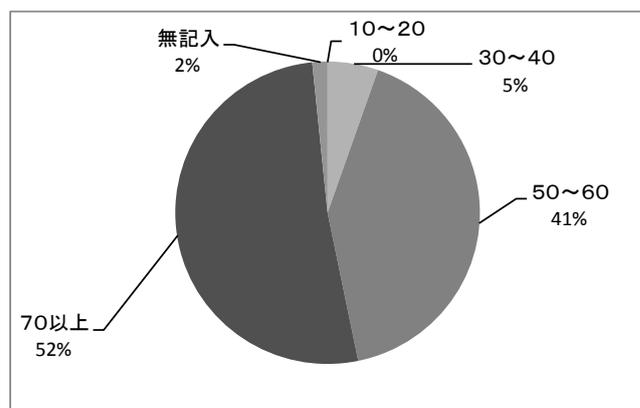
(性別)

男	101
女	67
無記入	18



(年代)

10歳代～20歳代	0
30歳代～40歳代	10
50歳代～60歳代	77
70歳以上	96
無記入	3



1) ご職業はどれに当てはまりますか？

ア	自営業	19
イ	勤め(全日)	20
ウ	勤め(パート・臨時)	16
エ	学生	0
オ	専業主婦	45
カ	無職	73
キ	その他	11
	無記入	2

■ 1) その他に当てはまり、記入された内容
大月市議、年金生活者、短大非常勤講師

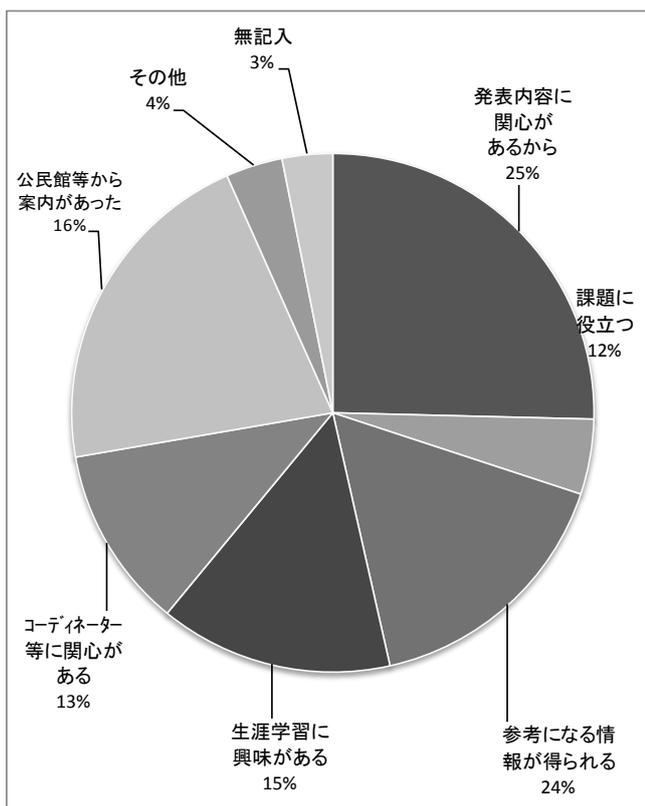
2) 今回の大会を何で知りましたか？

ア	ポスター・チラシ	44
イ	知人・友人からの案内	25
ウ	HP・FB	5
エ	学校からの案内	5
オ	公民館からの案内	49
カ	所属団体からの案内	69
キ	その他	8
	無記入	2
	二つ回答	21

■ 2) その他に当てはまり、記入された内容
教育委員会、いきいきサロン、各方面

I 今回の大会に参加した動機を教えてください。【複数回答可】

①	発表内容に関心があるから	65
②	取り組んでいる課題に直接的に役立ちそうだから	12
③	仕事や地域活動の参考になる情報が得られそうだから	42
④	生涯学習全般に興味があるから	37
⑤	コーディネーター・発表者に関心があるから	29
⑥	公民館や学校等から案内があったから	54
⑦	その他	9
	無記入	8
	二つ以上回答	70

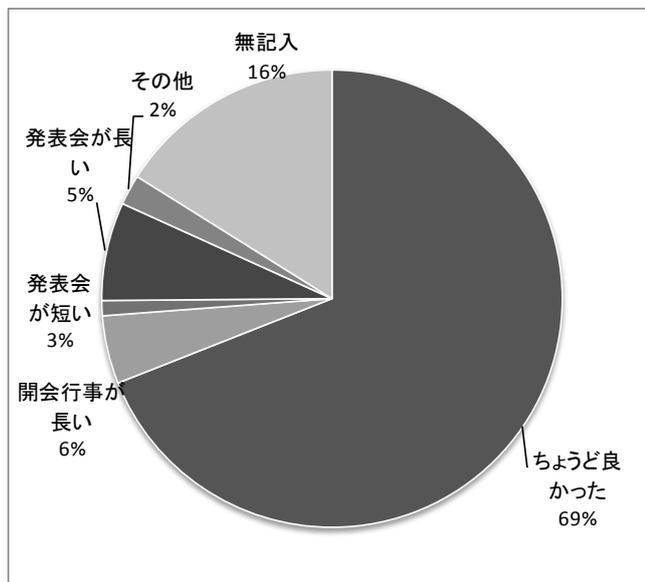


■その他に当てはまり、記入された内容

- ・ 短大関連行事
- ・ 知人が発表するので
- ・ 自治会で発表するため
- ・ 仲間が発表するから
- ・ 毎年、参加しているので

II 全体構成や日時設定について【複数回答可】

①	ちょうど良かった	129
②	開会行事が長すぎる	9
③	発表会が短すぎる	2
④	発表会が長すぎる	13
⑤	その他	4
	無記入	30
	二つ以上回答	1

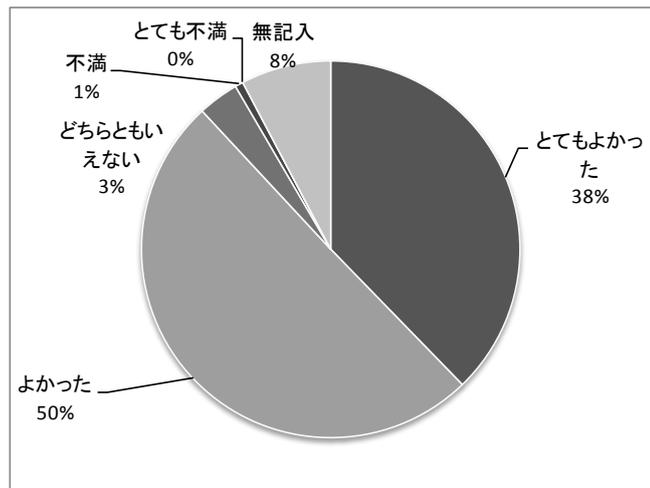


■その他に記入された内容

- ・ もっと聞きたい。
- ・ 3/3はひな祭りで老人は出席できるが、若い人は難しいと思う。
- ・ 発表の件数を絞ってほしい。3件くらい。
- ・ もう少し深堀がほしい。
- ・ トイレ休憩があったほうが良い。

Ⅲ 今回の大会は、全体としていかがでしたか？

①	とてもよかった	54
②	よかった	72
③	どちらともいえない	5
④	不満だった	1
⑤	とても不満だった	0
	無記入	11



■ 上記を選んだ理由

・ 地域活性の活動を知る為、もっと大勢の方に知ってもらいたい。
・ 各発表者の内容が良かった。コーディネーターも良かった。
・ まず行動することが大事。
・ 大月吹奏楽団、感激しました。
・ 学生の発表で「空き家を活用したくても貸してくれない所有者」が多いと聞いて問題だと思った。
・ 吹奏楽がとても良かった。発表者の方も工夫された発表で良かった。和田さんはスライドが素晴らしかったです。
・ 各パネラーの地域を見つめる郷土愛が伝わりました。
・ 各地区の行事の発表は毎回入れてほしい。近年、短大生の発表があるが、本当に大月を良くしてほしい。 →行政、商店の人
・ いろんな発表の団体があり、とても参考になりました。
・ 知らない事が良く分かった。
・ 説明内容の精査があれば良かった。
・ 式年大祭「御開帳」の大変さと重要性がよくわかった。
・ 猿橋幡野地区の12年に一度の式年大祭のご苦労話に感動した。
・ 大月市の未来を考える、自分のこれからを考えるよい機会となった。ありがとうございました。
・ 特に幡野地区の発表は印象的でした。
・ 在住の方ではなく学生の方の見方がとてもよかった。12年に一度の祭典や自らが楽しんでいる発表など学ぶ機会となった。
・ 関心ある内容と合点したから、とても良かった。
・ 大月市民として考えさせられる事がたくさんある事を知った。
・ 吹奏楽を楽しく聞けた。岩殿山探検隊の和田さんのスライドと解説が良かった。長時間なので腰が痛くなる、休憩時間が欲しい。
・ 内容は良かったですが、発表者が時間を守ってほしかった。
・ 自分が関わっていない団体の活動の事が分かって興味深かった。
・ 大月短大生の発表がとても良かったです。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表の内容も良かったし、槇平先生の講評も良かった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表者、関わっている人たちの熱意が伝わりました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 初めての参加でしたが良かったです。次回も参加していろいろな方面に役立てたいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ ブラスバンドの演奏が良かった。地域で活動しやすい体制に目を向けてほしい。若者が育成に目を向けることも大事。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 特に御開帳、岩殿山が良かった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動している場所から、どのように地域に活動を拡げていくかのヒントが見つかりそうになった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前に調節して時間を分担していると思うが、押せ押せになり終了が遅くなるのは残念である。時間を厳守してもらいたい。何処を主体にするか考慮してもらいたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今まで知らなかった大月の伝説や歴史を知り、感動しました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 式年大祭が良かったです。和田さんも良かったです。
<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろと勉強になりました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 吹奏楽が良かった。各発表者さん、素晴らしかったです。身に染みました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ アトラクションが大変良かったです。地域に根ざしたお話、大変興味深く拝聴いたしました。町づくりを考えさせられた。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大月市内で頑張っている方々がいる事も分かり、自分の地域の今後の課題も見えてきました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の実情が分かった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大月市の伝統、文化、歴史を改めて知りました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 古い歴史と新しいもの(これからの若者に関心のあるものを取り上げてもらいたい)があればいいと考える。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の発表が良かった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大月の行事、式典が数多くあるのがわかりました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表者が素晴らしかったです。分かり易かった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統行事の事例発表は良かった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ コーディネーターの最後のまとめの話は参考になった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大月を活性化するために様々な立場で取り組んでいる方の活動を知ることができて良かった。大月市の人的、自然、歴史的な資源を知ることができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 吹奏楽が良かった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年の内容は今までで一番良かった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 短大生の発表のように具体的な提案、質疑応答が有益だった。地域の発表は、おらが村の自慢はそれなりに良いが、大月の発展との繋がりを考え発表してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大会を通して、様々な年齢の意見を聞き、共有でき、これからの大月について考えることができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 話しのまとめが良かった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 吹奏楽、井上代表の話も良かったです。楽器、団員の紹介をしてほしかった。演奏会は市民会館でやることの意義を考えてほしい。大月桃太郎伝説が単なる声掛けに終わらないように、岡山は国体と知事的一声、吉備津神社伝説で全国へPRしました。大月にある地名、史跡をもとにもっと発信して下さい。その点、小遊三さんに感謝です。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 幡野の御開帳についてよく知ることができました。岩殿山も高校生の頃に何度か登った思い出があります。(55年も前になります。)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大月市を想う気持ちが伝わってきました。

<p>どの発表も素晴らしかった。ブラスバンドも生の音楽に感動しました。岩殿山も60年も住んでいながら、新しい岩殿山を発見しました。お祭りも歴史的な素晴らしい伝統で大月の財産だと思いました。短大生の発表も、大月の事を考えズバリ活性化の提案がありました。ぜひ挑戦してほしい。学生の若者のセンスを実行しましょう！</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 12年に一度のお祭りの話、地域の皆様の御苦勞がよく分かった。短大生の熱意も感じた。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表内容が良かった。特に学生の発表。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表者の話を聞き、知識を得ることが出来た。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 岩殿山の話はもっと長い時間欲しかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大月市生涯学習の機会を知りえなかった数々を知ることが出来ました。
<p>地域の良さを知ることができた。大月市民の枠にこだわらず近隣の地域と協力することが少子化の問題を解消するひとつになると、発表を聞いて感じた。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の写真が現地に行けなくても見られたから良かった。
<p>音楽を中心とした市の活性化、身近だけど意外と知らない岩殿山、とても大切な幡野の伝統文化、短大生による発表、どれも興味深く考えさせられるお話でした。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 吹奏楽団の演奏がよかった。発表者の方々が今日までの準備が大変だったと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 演奏はとてもよかった。もっと長くてもよかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表会で若い人たちの思いを聞くことができた。アトラクションも素晴らしかった。
<p>発表者が素晴らしかった。発表者に対して質問ばかりでなく、感想や意見などについてもフロアから拾い上げてほしい。感動したり、共感したりした人たちがたくさんいたので、それらの感想や意見が、繋がりとか連帯を生み出すことができたのではないと思う。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 知識が得られた。

■ 自由記入欄(感想または、今後採りあげてほしい課題等)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 大月吹奏楽団の演奏に励まされた。クオリティも高い。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 岩殿山に洞くつがあるなんて知らなかった。桜の時、お天気の時の富士山、きれいですよね。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 吹奏楽をもう少し聞きたかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 桃太郎伝説が良かったです。
<p>音楽活動、是非応援したいと思います。一口千円で自由寄付はいかがでしょうか。今回私は杉並から参加しました。実家のある梁川を通して参加しました。御開帳の継続、大月遺産認可を！</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大月を盛り上げるためのいろんな活動があることを知りました。コーディネーターのまとめがよかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 話しが長過ぎて、とても疲れます。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 素晴らしい発表会でした。ありがとうございました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 槇平先生の講評(市の将来に関する)が適切で勉強になった。とともに少し大月の未来が心配になった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 吹奏楽団が市外で練習し、市外で演奏会をせざるを得ないという大月市の状況は改善すべきだと強く思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も参加していこうと思いました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本日、会場に来ていない人に内容を知ってもらいたい。
<p>私は音楽が好きなので、吹奏楽の演奏がとてもうれしいし、毎年の発表会も参加させてもらっています。今後もぜひ続けてほしいです。猿橋のお祭りの話を聞いていて、その一生懸命さに思わず胸がいっぱいになりました。これもなくてほしくないです。ぜひ続けてほしいです。頑張ってください。</p>

<ul style="list-style-type: none"> 文化、芸術、産業を活かす為、行政の力、働きに期待します。
<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習推進大会には直接関係ないですが、市民会館でパソコン学習が出来るスペースがあると有難いです。
<ul style="list-style-type: none"> より多くの人に参加してほしいと思います。人の多さがベストではないが。
<ul style="list-style-type: none"> 槇平先生のお話、聞きやすかった、わかりやすかったです。
<ul style="list-style-type: none"> 雪かきが先かComiが先か、質問者に同じ。雪が降れば自分も地域の人も不便を生ずることは明らか。形にこだわらず率先して雪かきをすればいいのに……。理屈ではない、年齢による考え方の相違か？空しい時代だ。当事者意識は必要。
<ul style="list-style-type: none"> 短大生が市民との交流を求めているということは目からうろこでした。若者らしい視点での提案、発表がとても興味深かったです。
<ul style="list-style-type: none"> 市民の参加を呼び込むシカケを考えたい。ホールに350名程か？都留市の手法をマネするのがベスト。マネは学ぶ、ということ。
<ul style="list-style-type: none"> 岩殿山について知らないところが多かったので、分かりやすく説明してもらい、とても良かったです。今度、登ってみたいくなりました。伝統文化の継続、地域の絆の大切さを感じさせられました。
<ul style="list-style-type: none"> 大勢の参加があり、良かったと思っています。
<ul style="list-style-type: none"> 司会の方が教育の経験者なので、とても良かったです。
<ul style="list-style-type: none"> 有意義な一時を過ごさせて頂き、有難うございました。本会の開催を知らない市民が多いのでは？もっと宣伝をした方が良いでしょう。
<ul style="list-style-type: none"> 全国的に高齢化、少子化の現状をどうしたら活性化できるか、ちょっとしたアイデアで人が集まることもある。そのような考え方をたくさん市民は持ち、マニュアルにそって行事が終わることに安堵している市民にも責任はあるが、交流を多くし、対話を増やし市民参加できる環境を作ってほしい。ただ、知らせしやべるではなく今後の事、希望ある発表がほしかった。
<ul style="list-style-type: none"> 私の生活している地区では、地域活動があまりなされていない。地区の皆様がもっと活動できる方法をなんとか見つけたい。
<ul style="list-style-type: none"> 和田さんの話、とても引き込まれました。岩殿山のこと、もっと知りたくりました。大月に住んで40年、もっと大月のことを知りたいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> 司会が素晴らしかった。ハッキリ聞き取れました。身近なことを新しく見つめ直すことができました。
<ul style="list-style-type: none"> 御開帳を文化遺産として大月市全体の宝に。
<ul style="list-style-type: none"> 御開帳を初めて知り、興味を覚えました。
<ul style="list-style-type: none"> 市内の学校が2つになった中学校に部活動の中で出来ればよいですね。資金をどう集めるかが大事です。他県で吹奏楽を聞いたことがあります。
<ul style="list-style-type: none"> アトラクションの吹奏楽は非常に楽しめた。(もう少し聞いていたかった)
<ul style="list-style-type: none"> 大月市の大切な伝統文化を次世代につなげていかなければならないと痛切に感じました。
<ul style="list-style-type: none"> 大月吹奏楽が素晴らしかった。
<ul style="list-style-type: none"> ことぶき勸学院の名称がもう少し現代風になると良いのではと思います。今の60代はまだまだ心身ともに若いので。
<ul style="list-style-type: none"> 発表者はある程度、時間を守るべき。
<ul style="list-style-type: none"> 今までで今回が一番良かった。
<ul style="list-style-type: none"> どの地区も次の世代を継続していく人材がいないということが一番の問題点だと思いました。コミュニケーションをとるにはまず、自分の方から行うのがよいと思う。
<ul style="list-style-type: none"> 地域に密着して活動している市内企業の事例を取り上げる。
<ul style="list-style-type: none"> 大月吹奏楽団の演奏が素晴らしかったです。学生の発表や教授の講評では未来の大月、自己について考えました。
<ul style="list-style-type: none"> アトラクションは準備で間があくから、開会式の前に行った方がよい。

<ul style="list-style-type: none"> 幡野地区の御開帳は大月市全体として他へ誇れる祭りだと思ふ。この文化遺産を多くの人に知っていただき、継承していくことができるとよいと思ふ。榎平先生のまとめのお話がわかりやすかった。
<ul style="list-style-type: none"> 来年も来てみたい。
<ul style="list-style-type: none"> 吹奏楽がとても良かったです。
<p>大月吹奏楽団の益々の発展を心より願っています。存在すること自体が貴重なことであると思っています。大月市は選挙の票につながらないことには無関心な土壌がありますが、文化活動は大切なことであると思っています。除雪については、短大生のボランティア精神に頼る前に老人がせざるを得ないのであれば、それより前に市(行政)を責めるべきではないか。公道は個より市の仕事ではないか。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 皆様がいろいろな事に頑張っている様子が伺えました。
<ul style="list-style-type: none"> お願いとして、地区公民館主事の先生に一年に一回くらい分館へ出向いて、活動や運営の指導に来てもらえればありがたいです。
<ul style="list-style-type: none"> まずは当事者意識も持って家庭、職場、大月、地域のことを考えて行動していくことの必要性について学ぶことが出来た。ありがとうございました。
<ul style="list-style-type: none"> 感激しました。
<ul style="list-style-type: none"> 小規模ではありますが、生涯学習に取り組む中、若者が減少し、様々なことで後継者がいなくなると自分達なりに不安を抱きながら短大生の「市の現状を客観的に指摘」されていることに目覚めさせる思いでした。会話的やりとりの発表が新鮮でした。力が頂けました。
<ul style="list-style-type: none"> ポスター、チラシ、広報と様々な方法で案内がなされているものの以前に比べ参加者が少ないのが気になりました。生涯学習の重要性は誰でも理解しているはずですが、あえて生涯学習の場に参加しなくてもテレビ、パソコン、スマホと時間を過ごすことが出来るからでしょうか？
<ul style="list-style-type: none"> ブラスバンド続けてください。また聞きに行きます！
<ul style="list-style-type: none"> 短大生のお二人の意見は良かった。
<ul style="list-style-type: none"> 身近な伝統芸能を続けることの大切さを改めて感じました。行政もぜひ力を入れて下さい。
<ul style="list-style-type: none"> 短大生の発表がとても良かったです。
<ul style="list-style-type: none"> 学生目線は大事。住民の考えつかない視点がある。
<ul style="list-style-type: none"> 人員不足と言いつつ、良い演奏を聞かせていただきました。
<ul style="list-style-type: none"> 大会はいつも良い内容です。これからもお願いします。
<ul style="list-style-type: none"> 市のマイナス面をマイナスのままであきらめずプラスに変える思考が必要だと短大生の話を聞いて思いました。
<ul style="list-style-type: none"> 中身の濃い大会でした。運営に関わった皆さん、お疲れ様でした。榎平先生のお話にあったとおり、改めて「自分づくり」と「子育て」を心がけようと思います。大好きな「ふるさと大月」のためにみんなでがんばりましょう！
<ul style="list-style-type: none"> 木版画家の作品の展示があると良いと思う。吹奏楽についても様々な問題があることがわかり、発展できるように頑張ってもらいたい。生活に直結しているので、理想から現実に行動していくことが大切であると思われる。大月市民の参加された年齢層をもっと広くする必要があると思う。もっと30,40代も参加できるように、子どもの預かりとかがあると良い。
<ul style="list-style-type: none"> 「地域のカ・地域の未来」への市の協力が感じられない。平野先生の引退演奏会を大月市民会館で開けないのは残念です。とにかく長い。寒い。
<ul style="list-style-type: none"> どの発表者も素晴らしかった。井上さんからは吹奏楽を次世代につなげていくための熱意とパワーを感じました。幡野地区の杉本さんの発表は、12年に一度の大祭への思い、地域への思いがよく練られた発表から伝わってきました。和田さんの岩殿山探検隊は、もっとゆっくり、たっぷり時間をかけて観たり聴いたりしたかったと心の底から思いました。映像も語りも版画も最高でした。大月短大の川端さん、長谷川さんの会話形式の発表も、思わず身を乗り出して聴き取りました。若い世代の課題認識、改善への着眼点、何よりも大月市のことを思い考えてくれていることに心から感謝です。一市民として、短大生の皆さんともっと知り合い、様々な勉強をしたいと感じることができた発表会でした。発表に対しての感想や意見をフロアからも発信する時間をとってもらえれば、もっと盛り上がる大会になったのではないかと思います。準備、運営をしてくださいました関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

【市民会館1階 大ホール】

開会式



開会
(中村 社教委会長)



主催者あいさつ
(小泉教育長)



励ましのことば
(石井市長)



来賓祝辞
(鈴木副議長)



アトラクション：大月吹奏楽団による演奏



発表会「見つめ直そう！地域の力」～見つめよう！地域の未来～



コーディネーター 榎平 龍宏 先生



講評：榎平 龍宏 先生

発表者の方々



大月吹奏楽団 井上 様



木版画家 和田 様



猿橋幡野地区役員 杉本・知見 様



質疑応答・会場の様子



大月短大生 川端・長谷川 様

【1階展示室】



公民館や社会教育施設の活動展示

【1階ロビー】



大月大豆倶楽部さん
大月市観光協会さん
による出店販売

